



2026年度

シラバス

保育・幼児教育学科

大阪健康福祉短期大学



## 《シラバスの見方》

★シラバスとは、講義の内容や予定、到達目標や評価の方法などの授業計画がまとめられた資料のことです。今年度1年生を対象に開講される科目を目次にそって記載しています。シラバスの各項目の見方は、下記を参照してください。

### (1) 講義等情報

#### ①授業の種類

主にどのような形態で授業が展開されるのかを示します。

講義…教員が説明したり、学生と対話したりすることを通して学習内容を伝える方法

演習…模擬的な対象を設定して、体験的に学習内容を伝える方法

#### ②授業担当者

科目によっては複数の教員が担当する授業があります。オムニバス形式の授業では、複数の教員が単独で登壇して授業を展開します。

#### ③配当

開講される時期を表しています。

#### ④必修・選択

卒業や資格・免許を取得するにあたり、履修が必要かどうかを示しています。

卒業必修…卒業するために必ず履修しなければならない科目

資格必修…保育士資格を取得するために必ず履修しなければならない科目

幼免必修…幼稚園教諭二種免許状を取得するために必ず履修しなければならない科目

選択必修…卒業するため、もしくは保育士資格を取得するために指定した科目

### (2) 授業の目的・ねらい

当該授業の学習を通して学生に期待する学習内容を示しています。

### (3) 授業修了時の達成課題（到達目標）

授業終了時まで学生に出来るようになってほしい事柄を示しています。

### (4) 準備学習の内容

各回の授業を行うにあたり、授業計画をみて事前に学んでおいた方がよい知識・情報が必要と思われるものについて記載しています。

## (5) 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

授業の目的・ねらい、到達目標に応じて具体的なテーマ、内容を示しています。授業内での発表や課題解決型学習、グループワーク等の授業の進め方や方法を記載しています。

## (6) 試験

所定の回数の授業を実施した後に行われる試験について示しています。「なし」や空欄の場合、授業内評価によって評価が行われることを示しています。

## (7) 使用テキスト

授業で実際に使用するテキストを明記しています。毎回の授業で必ず準備する必要があります。

## (8) 参考文献

必ずしも授業内で使用しませんが、授業内容に関連して読んでおいたほうがよい文献を提示しています。

## (9) 試験の方法と学習成果の評価基準

### ①平常試験

#### ア、到達度の確認

平常授業時における提出物や講義のまとめおよび筆記またはレポートにより学力確認を行います。

#### イ、実技・作品発表等

平常授業時に講義のまとめおよび実技・作品の発表を行います。

### ②試験

#### ア、筆記試験

授業終了後に所定の期日に筆記による試験で評価を行います。

#### イ、レポート

授業終了後に期日を設け、指定された場所へ提出されたレポートによって評価を行います。

#### ウ、実技試験

授業終了後に所定の期日に実技による試験で評価を行います。

#### エ、面接試験

授業終了後に所定の期日に口頭による面接試験で評価を行います。

## (10) フィードバックの方法

試験やレポート等の課題に対するフィードバックの方法を示しています。

## 保育・幼児教育学科における主要授業科目

「主要授業科目」とは、学生に学位を取得させるに当たり、当該学位のレベルと分野に応じて達成すべき能力を育成するために必要な科目群であり、各授業科目のうちいずれが主要授業科目に当たるかは、当該授業科目と3つのポリシーとの関係等を踏まえ、各大学等で判断するものです。

保育・幼児教育学科では下記の科目を「主要授業科目」として定めています。

教育の特徴	主要授業科目
1. 科学的な根拠に基づく保育・幼児教育の力	保育ゼミナールⅠ 保育ゼミナールⅡ 保育ゼミナールⅢ
4. ゼミ形式で行う個別的な学習サポート	保育ゼミナールⅣ 保育・教職実践演習
2. 豊かな人間性と生活力	地域実践演習Ⅰ 地域実践演習Ⅱ 保育実習指導Ⅰa 保育実習Ⅰa 保育実習指導Ⅰb 保育実習Ⅰb 教育実習指導Ⅰ 教育実習指導Ⅱ 幼稚園実習 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅲ 保育実習Ⅲ
3. 豊かな感性と児童文化を創造・発信する力	表現技術Ⅰ 表現技術Ⅱ 表現技術Ⅲ 総合表現

# 目次

## <1年次>

### 【教養科目群】

#### 卒業必修科目

日本国憲法	1
情報教育入門（機器操作を含む）	3
英語	5
体育（講義）	8
体育（実技）	10
文章表現	12
教養基礎演習Ⅰ	14
教養基礎演習Ⅱ	15
キャリアアップ教育Ⅰ	17
キャリアアップ教育Ⅱ	18
図画工作	19
音楽	20

#### 卒業選択必修科目

インターンシップⅠ	22
インターンシップⅡ	23

### 【専門基礎科目群】

#### 卒業必修科目

保育原理	24
教育原理	26
発達心理学	28
保育内容（総論）	30
ピアノ表現	32

#### 幼稚園教諭免許必修科目／保育士資格必修科目

教職論	34
幼児と健康	36
幼児と人間関係	37
幼児と環境	38
幼児と言葉	39
幼児と表現	41
保育内容（言葉）	43
保育内容（表現）	45
教育課程論	47

#### 幼稚園教諭免許必修科目／保育士資格選択必修科目

特別支援教育論	49
---------	----

#### 保育士資格必修科目

保育の計画と評価	50
子ども家庭支援の心理学	52
子どもの保健	54
子どもの食と栄養	56
子ども家庭福祉	57
社会福祉論	59
障がい者福祉論	60
障がい児保育	61
社会的養護Ⅰ	63
乳児保育Ⅰ	65
乳児保育Ⅱ	67

### 【専門応用科目群】

#### 卒業必修科目

表現技術Ⅰ	69
表現技術Ⅱ	70

### 【専門実践科目群】

#### 卒業必修科目

地域実践演習Ⅰ	72
地域実践演習Ⅱ	73

#### 幼稚園教諭免許必修科目

教育実習指導Ⅰ	74
---------	----

#### 保育士資格必修科目

保育実習指導Ⅰa	76
保育実習指導Ⅰb	78
保育実習Ⅰa	80
保育実習Ⅰb	82

### 【専門研究科目群】

#### 卒業必修科目

保育研究法	84
保育ゼミナールⅠ	86
保育ゼミナールⅡ	89

## 科目ナンバリング

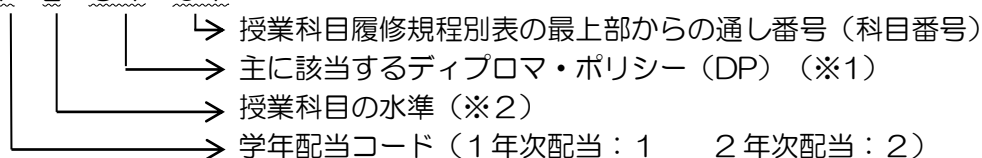
当該授業科目の教育課程内の位置づけを表す番号です。授業科目に番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。

シラバスの右下に各科目のナンバリングを示しています。

### カリキュラムへのナンバリング

(例)

日本国憲法：1-L-34-01



（※1）ディプロマ・ポリシー

コード	該当 DP
10	DP1
12	DP1+DP2
20	DP2
30	DP3
34	DP3+DP4
40	DP4
50	DP5
60	全 DP

（※2）授業科目の水準

コード	水準	内容
L	教養	教養科目
B	基礎レベル	専門科目 知識・理解
A	応用レベル	専門科目 方法・技能
P	実践レベル	専門科目 実習・実技
R	研究	研究科目

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 日本国憲法		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 永松 正則	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 子どもと子育てにやさしい社会を作るために、社会の仕組み、とくに基本的人権、法制度を理解し説明できる。					主に対応するDP 3+4
[授業全体の内容の概要] 生命身体を守り、個人の自己決定を尊重する福祉の実現のために、憲法が保障する基本的人権（私人間における人権問題を含む）と統治機構について学びます。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 憲法が保障する基本的人権について、とくに子どもや保護者の権利という視点から、また保育士、幼稚園教諭という視点から説明できる。 人権侵害、権利自由の侵害に関する司法的・行政的救済場面において、論理的に自分の考えを展開することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 憲法総論 憲法の学習を始める上で必要となる近代憲法史、憲法の基本原理である「立憲主義」、「国民主権」、「平和主義」、「基本的人権の尊重」などを概観し、授業の射程を明らかにします。					
2) 基本的人権総論 個々の人権規定に共通する以下のテーマについて解説します。(1) 人権享有主体、(2) 人権の分類※小テストあり。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		
3) 幸福追求権 「新しい人権」の源となっている幸福追求権について解説します。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		
4) 法の下での平等 何が憲法が要求する「平等」なのか。尊属殺重罰規定、女性の再婚禁止期間規定、夫婦別姓制度など具体的な裁判例を通じて明らかにしていきます。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		
5) 自由権 思想良心の自由、信教の自由、職業選択の自由などの自由権について解説します。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		
6) 表現の自由 自由権の中でもとりわけ重要な表現の自由について解説します。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		
7) 生存権 何が「健康で文化的な最低限度の生活」なのか、朝日訴訟などの裁判を通じて明らかにします。また生存権を具体化している諸法律について紹介します。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		
8) 社会権 教育を受ける権利、労働基本権などの社会権について解説します。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		
9) 受益権(国務請求権)、参政権 第3回から第8回までで扱わなかった人権について、最高裁判所の違憲判決を通じて解説します。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		
10) 基本的人権のまとめ 第9回までの内容をまとめ、人権の限界について考えます。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		
11) 立法と国会 国会の仕組みと権能などを明らかにします。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		
12) 行政と内閣 議院内閣制と大統領制の違い、内閣の組織・権限、内閣総理大臣の権限などについて解説します。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		

13) 司法と裁判所	日本の裁判制度と裁判組織などについて解説します。	〔事前事後学習〕 担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)
14) 違憲審査制	最高裁判所の違憲判決を通じて、日本の違憲審査制の特徴について解説します。	〔事前事後学習〕 担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)
15) 到達度の確認		〔事前学習〕 授業内で配布した資料・小テストを確認する。(1時間)
[使用テキスト] 授業で扱う裁判例がコンパクトに解説されている渋谷秀樹『憲法判例集〔第13版〕』(有斐閣・2025)を指定します。 ※授業は担当者が用意する資料にそって行います。		
[参考文献] 定評のある教科書として多くの大学で指定されている芦部信喜『憲法(第8版)』(岩波書店・2023)があります。		
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認(100%)	第15回授業内で講義内容の理解度を確認(筆記)し、成績評価します。	
②実技・作品発表( )%		
【定期試験】		
①筆記試験( )%		
②レポート( )%		
③実技試験( )%		
④面接試験( )%		
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない	
[フィードバックの方法] 全授業終了後、正答を開示します。		
[備考] GoogleClassroomを用いて小テストを行います。ログイン可能な機器(パソコンやスマートフォン)を持参すること。		

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-50-01

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 情報教育入門 (機器操作を含む)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 野田 哲夫	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		卒業必修			
[授業の目的・ねらい] コンピュータの基本知識とインターネット利用のリテラシーや情報セキュリティについて学びます。ワープロソフト (Microsoft Word)、表計算ソフト (Microsoft Excel)、プレゼンテーションソフト (Microsoft PowerPoint) の基本操作と統計の基礎知識を学び活用できます。これらの知識・技術を活用して他の講義・実習にも必要なレポート・論文・プレゼンテーション資料を作成できます。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] コンピュータを使ってワープロソフト (Microsoft Word)、表計算ソフト (Microsoft Excel)、プレゼンテーションソフト (Microsoft PowerPoint) の基本操作・技能を教え、この技能を使った応用方法について教えます。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] コンピュータの基本知識とインターネットの利用、情報リテラシー・情報セキュリティについて学んだ上で、 ・ ワープロソフト (Microsoft Word) を使った文書作成と編集、レポート作成ができます。 ・ 表計算ソフト (Microsoft Excel) を使った計算、グラフ作成、データベース作成・操作ができます。 ・ プレゼンテーションソフト (Microsoft PowerPoint) を使った発表資料作成ができます。 以上を総合的に活用して課題レポートや統計処理、論文作成、プレゼン資料が作成できることを目標とします。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ガイダンス・コンピュータの基礎知識 コンピュータの操作方法、および Windows の操作・ファイルシステム等を理解します。			コンピュータの起動と Windows の操作を行っておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
2) インターネットの基本操作、情報リテラシー インターネットの操作を通して、インターネットの仕組みと、ネット社会における情報リテラシーや情報セキュリティを学習します。			インターネット接続の準備をしておきましょう。情報リテラシー・情報セキュリティの事前学習をしておきましょう。【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
3) ワープロソフトの応用、文書作成 Microsoft Word を使って簡単な文書作成を行います。			ワープロソフト (Microsoft Word) の起動確認、ローマ字入力の確認、入力練習をしておきましょう。【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
4) ワープロソフトの応用、文書編集 Microsoft Word を使って簡単な文書作成と編集を行います。			指定した文書の作成をしておきましょう。【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
5) 表計算ソフトの基本操作、式と関数 Microsoft Excel の基本操作を理解し、式の計算、および簡単な関数による算出を行います。			表計算ソフト (Microsoft Excel) の起動確認、計算練習、関数練習をしておきましょう。【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
6) 表計算ソフトの基本操作、グラフの作成 Microsoft Excel でデータを元にしたグラフ作成を行います。			グラフの元データ入力、準備をしておきましょう。【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
7) 表計算ソフトの応用、データベース Microsoft Excel を活用してデータベースの操作を行います。			データベースの元データ入力、準備をしておきましょう。【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
8) プレゼンテーションソフトの基本操作 Microsoft PowerPoint の基本操作を理解し、Word、Excel で作成したデータを活用して編集、発表資料の作成を行います。			プレゼンテーションソフト (Microsoft PowerPoint) 起動確認しておきましょう。Word、Excel で作成したデータの準備をしておきましょう。【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
[使用テキスト] 『情報リテラシー教科書 Windows 10/Office 2024 対応版』 ISBN-13 : 978-4-274-23437-8					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認 ( 50%)   授業毎に課した課題を提出してもらいます。(Google Form を活用)。					

②実技・作品発表 ( %)	
<b>【定期試験】</b>	
① 筆記試験 ( 50%)	インターネットリテラシーや情報セキュリティの基礎知識、Word, Excel, PowerPoint の基本操作の確認を問います。また、Excel による計算、関数の理解と活用確認、グラフ作成とデータベース作成確認を問います。
②レポート ( %)	
③実技試験 ( %)	
④面接試験 ( %)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 授業毎に課題を課し、コメントを付けて返却します (Google Form を活用)。 筆記試験については、答案を返却し間違えた箇所を指摘、正答を試験期間終了後に開示します。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-50-02

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 英語		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 山中 由美子	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター 卒業必修
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 英語に対する不安を軽減し、歌・ゲーム・映像・ペア/グループ活動を通して、日常生活や保育現場で使われる基本的な英語表現に親しむことを目的とする。 また、簡単な英語表現を用いて自分の気持ちや考えを伝え、他社の話を聞く経験を積むことで、英語によるコミュニケーションへの意欲を高める。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 最初に気分を表す簡単な英語表現によるウォームアップから始め、英語の歌を通して英語の音や表現になれる。 続いて、幼児と楽しめる手遊び歌や英語ゲームを取り入れ、参加型の活動を行う。 さらに、身近な話題 (好きなこと、将来の夢など) をテーマに、ペアやグループで簡単な英語表現を用いた発話練習を行う。 映像資料を活用し、実際の場面で使われる英語フレーズに触れた後、授業のまとめとして学習した表現を振り返り、短い記述活動を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 英語に対する抵抗感が軽減され、基本的なあいさつや日常的な英語フレーズを理解し、簡単なやり取りができるようになる。 また、保育現場を想定した歌やゲーム、声かけ表現に親しみ、英語を用いたコミュニケーション活動に主体的に参加しようとする姿勢が身についている。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション、 歌「Carpenters - Top of the World」、 ゲーム「Simon Says」、 ペア/グループワーク「I like」を使った自己紹介、 映像表現に触れる 今日の振り返り					
2) 歌「Carpenters - Yesterday, once more」 手遊び「If you are happy clap your hands, 幸せなら手を叩こう」 ペア/グループワーク「I can」できること (歌う・折り紙・ピアノ) 映像表現に触れる 今日の振り返り			前回授業で扱った英語表現を復習し、次回のペア・グループ活動に備える。(10分)		
3) 歌「The Beatles - Yesterday」 手遊び「Open, Shut Them」 ペア/グループワーク「I want to もし時間があったら」 映像表現に触れる 今日の振り返り			前回授業で扱った英語表現を復習し、次回のペア・グループ活動に備える。(10分)		
4) 歌「Carpenters - Close to you」 手遊び「Head, Shoulders, Knees, and Toes」 ペア/グループワーク「I'm good at」得意なことを紹介 映像表現に触れる 今日の振り返り			前回授業で扱った英語表現を復習し、次回のペア・グループ活動に備える。(10分)		
5) 歌「The Beatles - Hello, Goodbye」 手遊び「One little Finger」 ペア/グループワーク「I'm not good at」苦手なことを紹介 映像表現に触れる 今日の振り返り			前回授業で扱った英語表現を復習し、次回のペア・グループ活動に備える。(10分)		
6) 歌「Carpenters - Sing」 手遊び「The Wheels on The Bus」 ペア/グループワーク「I often」普段よくすること 映像表現に触れる			前回授業で扱った英語表現を復習し、次回のペア・グループ活動に備える。(10分)		

今日の振り返り	
7) 歌「The Beatles - Let it Be」 手遊び「The Wheels on The Bus」 ペア/グループワーク「I like ~because」理由を1語でつける 映像表現に触れる 今日の振り返り	前回授業で扱った英語表現を復習し、次のペア・グループ活動に備える。(10分)
8) 歌「Ben E. King - Stand By Me」 手遊び「Itsy Bitsy Spider」 ペア/グループワーク『I want to be〜』将来になりたい保育者像 映像表現に触れる 今日の振り返り	前回授業で扱った英語表現を復習し、次のペア・グループ活動に備える。(10分)
9) 歌「Simon & Garfunkel - The Sound of Silence」 手遊び「Rain Rain Go Away」 ペア/グループワーク「I' m happy when」幸せを感じる瞬間 映像表現に触れる 今日の振り返り	前回授業で扱った英語表現を復習し、次のペア・グループ活動に備える。(10分)
10) 歌「John Denver - Take Me Home, Country Roads」 手遊び「Five Little Monkeys」 ペア/グループワーク「I' m worried about」実習・将来の不安 映像表現に触れる 今日の振り返り	前回授業で扱った英語表現を復習し、次のペア・グループ活動に備える。(10分)
11) 歌「Louis Armstrong - What a Wonderful World」 手遊び「Twinkle Twinkle Little Star」 ペア/グループワーク「I think」意見を言う。 映像表現に触れる 今日の振り返り	前回授業で扱った英語表現を復習し、次のペア・グループ活動に備える。(10分)
12) 歌「The Beatles - All You Need Is Love」 手遊び「Old MacDonald」 ペア/グループワーク「I agree/disagree」簡単ディスカッション 映像表現に触れる 今日の振り返り	前回授業で扱った英語表現を復習し、次のペア・グループ活動に備える。(10分)
13) 歌「ABBA - Dancing Queen」 手遊び/ゲーム ペア/グループワーク「I have to」実習・学校生活の義務 映像表現に触れる 今日の振り返り	前回授業で扱った英語表現を復習し、次のペア・グループ活動に備える。(10分)
14) 歌「Jason Mraz - I' m Yours」 ゲーム「ミステリーボックス」 ペア/グループワーク「I try to」今がんばっていること。 映像表現に触れる 今日の振り返り	前回授業で扱った英語表現を復習し、次のペア・グループ活動に備える。(10分)
15) 歌「The Beatles - Hey Jude」 ジェスチャーゲーム ペア/グループワーク「I learned that」この授業で学んだこと。 映像表現に触れる 今日の振り返り	前回授業で扱った英語表現を復習し、次のペア・グループ活動に備える。(10分)
[使用テキスト] 教員が作成する英語表現スライド、歌詞資料等を用い、授業内容に応じて適宜配布する。	
[参考文献]	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
① 到達度の確認 (50%)	毎回振り返りシートへ、学習した英語表現と感想を記述し提出

②実技・作品発表 ( % )	
【定期試験】	
①筆記試験 ( % )	
②レポート ( % )	
③実技試験 ( % )	
④面接試験 ( 50% )	授業で学習した英語表現を用い、簡単なあいさつ質問への応答、自分の気持ちや考えを伝えるやりとりを行う。英語を使って伝えようとする姿勢を重視して評価する。
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]授業終了時の、学習した英語表現の振り返りや感想の記述を通じて個別コメントを返す。定期試験の面接時の様子を踏まえ、今後の学習につながる助言を行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-50-04

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 体育 (講義)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 須崎 康臣	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 社会人としての知識・教養を獲得するため、スポーツの科学的知見について理解し、それに基づき実践で きるようになる。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] スポーツ科学における各領域について、科学的知見に基づき講義形式で実施する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] スポーツの実施や指導を行うために必要な基礎的な知識について理解し、説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション, スポーツと心理学 I 心理学の側面から、運動が心や体に及ぼす効果についての講義			これまでの経験から運動が心や体に及ぼす効果について振り返る (15分間)		
2) スポーツと心理学 II 運動が上手になるといったメカニズムを理解するために運動技能の構造と運動学習について講義			これまでの経験から運動が上手くなった経験や上手くない経験について振り返る (15分間)		
3) スポーツと心理学 III 運動を継続するという観点から、そのメカニズムと、継続を促すための方法について講義			これまでの経験から継続が続かなかった活動や継続するための工夫について振り返る (15分間)		
4) スポーツと心理学 IV 運動に対する動機づけの理論の紹介と動機づけを促すための指導方法について講義			自分や人の動機づけを高めるために必要な支援にはどのようなものがあるかを考える (15分間)		
5) 遊びとしての運動とその指導 遊びとしての運動の重要性と、遊びのための運動指導について講義			自身にとってどのような遊びをしてきたかを振り返る (15分間)		
6) スポーツを安全に行うために スポーツの実施や指導を行う際に、活動中に多いケガや病気とケガをしたさいの救急処置と、暑熱環境が身体に及ぼす影響について講義			スポーツでケガを防ぐための予防法や水分補給について調べる (15分間)		
7) ウェイトコントロールにおける食事と運動の意義 適切なウェイトコントロールを行うために肥満、エネルギー消費、運動強度に関する講義			自身にとっての肥満やダイエットとは何かを考える (15分間)		
8) 運動発達 発育発達における運動機能について紹介を行い、保育者と園環境が子どもの運動機能に及ぼす影響に関する講義			子どもの運動を支援する際にどのようなかわりが必要かを考える (15分間)		
[使用テキスト] 教員より適宜、資料を配布する。					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (60%)	講義終了時に行う、振り返りのための小テストから評価します				
②実技・作品発表 ( ) (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (40%)	筆記による試験を行います				
②レポート ( ) (%)					
③実技試験 ( ) (%)					
④面接試験 ( ) (%)					
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] 到達度の確認は、小テスト後に正当回答を説明する。筆記試験について、正答を試験期間終了					

後に開示する。

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-50-05

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 体育 (実技)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実技		授業担当者 須崎 康臣	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 文化・芸術・人間性、感性と表現力を身につけるため、運動技能が向上できるようにする。また、社会人としての知識・教養を獲得するため、スポーツの特性やルールについて理解し、それに基づき実践できるようにする。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 段階的な授業計画に基づいて、ソフトバレーボール、バスケットボール、バドミントンといった各スポーツの実技指導を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 各スポーツにおける特性とルールを理解できる。また、各スポーツの技能が向上し、ゲームを行うことができる。また、他者との協力を通して活動ができる態度を有している。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション・ソフトバレーボール (グループ分け・キャッチゲーム)			ソフトバレーボールのルールについて調べる。15 分間		
2) ソフトバレーボール (グループ分け・ボール操作・キャッチゲーム・ゲーム)			ソフトバレーボールに必要な個人技術について調べる。15 分間		
3) ソフトバレーボール (グループ分け・ボール操作・サーブ・ゲーム)			ソフトバレーボールに必要な個人技術について調べる。15 分間		
4) ソフトバレーボール (グループ分け・ボール操作・アタック・ゲーム)			ソフトバレーボールに必要なチーム技術について調べる。15 分間		
5) ソフトバレーボール (グループ分け・ボール操作・アタック・ゲーム)			ソフトバレーボールに必要なチーム技術について調べる。15 分間		
6) ソフトバレーボール (グループ分け・ボール操作・アタック・ゲーム)			ソフトバレーボールに必要なチーム技術について調べる。15 分間		
7) ソフトバレーボール (グループ分け・実技テスト・ゲーム)			ソフトバレーボールに必要なチーム技術について調べる。15 分間		
8) ソフトバレーボール (グループ分け・実技テスト・ゲーム)			ソフトバレーボールに必要なチーム技術について調べる。15 分間		
9) バスケットボール (グループ分け・ドリブル・パス・シュート練習・ゲーム)			バスケットボールに必要な個人技術について調べる。15 分間		
10) バスケットボール (グループ分け・ドリブル・パス・シュート練習・ゲーム)			バスケットボールに必要な個人技術について調べる。15 分間		
11) バドミントン (グループ分け・ラケット操作・サーブ練習・シングルスゲーム)			バドミンントンのルールについて調べる。15 分間		
12) バドミントン (グループ分け・ラケット操作・サーブ練習・シングルスゲーム)			バドミントンに必要な個人技術について調べる。15 分間		
13) バドミントン (グループ分け・ラケット操作・サーブ練習・シングルスゲーム)			バドミントンに必要な個人技術について調べる。15 分間		
14) バドミントン (グループ分け・ラケット操作・フットワーク・ダブルスゲーム)			バドミントンに必要なペア技術について調べる。15 分間		
15) バドミントン (グループ分け・実技テスト・ダブルスゲーム)			バドミントンに必要なペア技術について調べる。15 分間		
[使用テキスト]					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					

①到達度の確認（８０％）	授業における振り返りの量と質から評価
②実技・作品発表（２０％）	ソフトバレーボールとバドミントンの運動技能に関する実技テストで評価
【定期試験】	
①筆記試験（　％）	
②レポート（　％）	
③実技試験（　％）	
④面接試験（　％）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
実技テスト時に結果を伝える。振り返りは用紙を返却する。	
[備考]	
松江市総合体育館で実施する	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-50-06

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 文章表現		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 橋本 祐治	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		元小学校教員としての経験を活かし、多様な文章の書き方について講義する。			
[授業の目的・ねらい] 大学生・社会人としての日本語についての知識・教養と、表現する力を高めるために、自ら感じたことや考えたことを自覚し、それを目的に合わせて適切に文章で表現することができるようになる。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 継続的な短作文や俳句作り、日本語基礎知識の小問題をとおして文章表現に係る基盤を培うとともに、目的に応じた様々な種類の文章について理解し、それらを書くことができるようにする。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・日本語の基礎知識を身に付けるとともに、目的に応じた文章の書き方を理解する。 ・限られた字数の中で目的に合った文章を書く。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 授業の達成課題、準備学習の内容、授業の進め方等について見通しを持つ。 ・示されたテーマについて文章を書き、自分の文章表現力の現状を認識する。 ・200 字作文の意義及び次回のテーマと書き方を理解する。(第 6 回まで)			・「シラバス」を読む。(30 分)		
2) 表現の基礎を理解する。その 1 ・これから身につける必要のある文章表現力を理解する。			・示されたテーマについて、200 字作文の準備をする。(20 分)		
3) 表現の基礎を理解する。その 1 ・印象のよい文章を書くために、表記と言葉づかいの基本を理解する。			・示されたテーマについて、200 字作文の準備をする。(20 分) ・テキスト p.10~17 を読む。(30 分)		
4) 表現の基礎を理解する。その 1 ・たくさんの情報を整理し、見やすく示す方法を理解する。			・示されたテーマについて、200 字作文の準備をする。(20 分) ・テキスト p.18~25 を読む。(30 分)		
5) 表現の基礎を理解する。その 1 ・メールの基本的な書式やマナーを理解し、情報を正確に伝えるために必要な書き方を理解する。			・示されたテーマについて、200 字作文の準備をする。(20 分) ・テキスト p.32~37 を読む。(30 分)		
6) 表現の基礎を理解する。その 2 ・読みにくい文について、読みにくくなる理由を理解し、読みやすい文の書き方を理解する。			・示されたテーマについて、200 字作文の準備をする。(20 分) ・テキスト p.40~45 を読む。		
7) 表現の基礎を理解する。その 2 ・敬語の基本的な仕組み、場面や人に合った適切な表現方法を理解する。			・示されたテーマについて、200 字作文の準備をする。(20 分) ・テキスト p.46~51 を読む。(30 分)		
8) 表現の基礎を理解する。その 2 ・依頼のメールや手順の説明など、読んだ人がスムーズに行動できる文章の書き方を理解する。 ・200 作文の成果と課題をまとめる。			・テキスト p.52~59 を読む。(30 分) ・これまでに書いた 200 字作文を読む。(20 分)		
9) 表現の基礎を理解する。その 2 ・手紙の基本的なルールや書式、マナーを理解し、実習や社会人になった時の必要に備える。 ・俳句を作る意義と作り方を理解する。			・テキスト p.60~68 を読む。(30 分)		
10) 表現の基礎を理解する。その 2 ・保育実習のお礼を想定して書いた手紙を読み合って、前時に学修した内容について確認する。 ・俳句を作る。			・保育実習を想定したお礼状を書く。(1 時間) ・俳句を作る準備をする。(20 分)		
11) 客観的な文章の書き方を理解する。その 1 ・新聞記事の書き方を理解する。			・朝刊 1 面の新聞記事を読む。(30 分) ・俳句を作る準備をする。(20 分)		

・俳句を鑑賞したり、作ったりする。(第11～14回)	
12) 客観的な文章の書き方を理解する。その1 ・提出された「新聞記事」の文章について、よい点や改善点を理解する。	・新聞記事の書き方による文章を書く。(30分) ・俳句を作る準備をする。(20分)
13) 客観的な文章の書き方を理解する。その2 ・レポートや論文のような客観的な文章を書く際の決まりを理解する。	・テキスト p.74～79 を読む。(30分) ・俳句を作る準備をする。(20分)
14) 客観的な文章の書き方を理解する。その2 ・レポートとはどのようなものかを知り、書き方や構成、基本的な書式を理解する。	・テキスト p.100～105 を読む。(30分) ・俳句を作る準備をする。(20分)
15) まとめ ・学修のまとめとして、新聞社の投稿欄を想定した、保育者を目指す者としての意見文を書く。	・新聞社の投稿欄を想定して、保育者を目指す者としての考えをまとめる。(1時間)
[使用テキスト] 野田春美他、『グループワークで日本語表現力アップ』,2016,ひつじ書房	
[参考文献] 田上貞一郎、『保育者になるための国語表現』,2010,萌文書林 沖森卓也・半沢幹一編、『日本語表現法』,2007,三省堂 金子泰子、『国語教師が教える二百字作文練習』,2018,溪水社	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
① 到達度の確認 (50%)	授業内容をまとめ、それに対する自らの考えや疑問、課題などを記述する。(各回提出)
② 実技・作品発表 (20%)	・テーマと条件に沿った200字作文を書いたり、五感を働かせて自然を観察したり、季語を調べたりして俳句を作る。(10%) ・「保育者を目指す」というテーマに沿って、題名を決め、構成を工夫してわかりやすく意見を述べる。(10%)
【定期試験】	
① 筆記試験 (%)	
② レポート (30%)	示された課題について、客観的な文章の書き方に沿って2,000字程度のレポートを作成する。
③ 実技試験 (%)	
④ 面接試験 (%)	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ・提出された「学修のまとめ」への評価を毎回返却する。 ・授業時間に書いた文章等への評価を毎回返却するとともに、授業内で解説したり、コメントしたりする。 ・レポート試験について、評価基準に基づいた個別評価票を提出レポートとともに返却する。	
[備考] 各回の「学修のまとめ」は Google CLASSROOM で提出する。シートには、事前学修実施の有無も記入する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-50-07

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 教養基礎演習 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 大学生としての基本的な学習姿勢を身に付ける。					主に対応するDP 4+5
[授業全体の内容の概要] 短期大学での自律的な学びを見通し、基本的な学び方(課題に応じた情報や文献の検索、読解と内容の要約、レポートの記述)を習得できるよう、具体例を示しながら授業をおこなう。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. 課題に応じた情報や文献を検索・収集することができる。 2. 情報や文献を読解し、内容を要約できる。 3. 文献を引用してレポートを作成することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 短期大学の2年間の見通しをもつ。求められる学生像を理解し、情報を整理するための方法に取り組む。					
2) 情報の収集と活用。インターネットの活用と文献検索。					
3) レポートの種類と文献/文献の内容をもとに自分の意見を表現する					
4) レポート設題を理解し、それに基づくレポートの構成を考える					
5) 文献を読み、要約に挑戦する。レポートの具体的な構成を決める。					
6) 引用を用いて自分の意見を書き言葉で表現する。					
7) 文献や自分自身に対する批判的思考に取り組む。					
8) レポート作成上の注意点の振り返り					
[使用テキスト] 保育・幼児教育学科編(2024)『大学で勉強する方法』					
[参考文献] 近藤裕子・由井恭子・春日美穂(2019)『失敗から学ぶ 大学生のレポート作成法』ひつじ書房。 上杉周作・関美和(訳)(2022)『FACTFULNESS』日経BP					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認(40%)	第6回終了時に課す課題に基づいて評価する。(20%) 第8回終了時に提出したノートによって評価する。(20%)				
②実技・作品発表(%)					
【定期試験】					
①筆記試験(%)					
②レポート(60%)	授業で示すテーマに対するレポートによって評価をする。				
③実技試験(%)					
④面接試験(%)					
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] レポートを添削し、コメントを付して返却する。					
[備考] 以下の注意事項を守り、授業に参加してください。 ・ノートを一冊準備して授業に参加する。(表紙に科目名、学籍番号、氏名を記入) ・各回ノートPC等(スマートフォン、タブレットでも可。但し、PCを必須とする回もある。)を準備し、学内Wi-Fiへの接続を済ませておく。PC等は予め充電しておく。 ・各回ノートPC等で、大学配布のメールアドレス(Gmail)でメールを受け取れるようにしておく。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-45-08

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 教養基礎演習Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 舟越 美幸・長島 佳奈	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	1 Semester 卒業必修
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 大学生として必要なグループディスカッションやプレゼンテーションを効果的に実施するための留意点の基礎を、演習を通じて学ぶ。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 協同的な学びを見据え、グループディスカッションを通して思考力や問題解決力を身に付ける。さらに、各自が興味・関心のある事項について理解を深め、パワーポイント資料を作成し、発表を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 他者と互いの意見を尊重しながらディスカッションを行うことで、共通項を導き出すことができる。 2. ディスカッションで導き出した内容をレポートにまとめることができる。 3. 各自が作成したパワーポイントを用いてプレゼンテーションを行い、他者に内容を分かりやすく伝えることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) アイスブレイク、グループディスカッション① (主: 舟越、副: 長島) ・グループディスカッションに必要な役割や方法について理解する ・設定されたテーマに基づき、グループディスカッションを行う。					
2) グループディスカッション② (主: 舟越、副: 長島) ・BS法とKJ法を用いながら、設定されたテーマに基づきグループディスカッションを行い、共通項を導き出す。			指定されたテーマに関する課題を行う (30分)		
3) グループディスカッション③ (主: 舟越、副: 長島) ・グループディスカッションから導かれた共通項をもとに、レポートを作成し、発表する。			ディスカッションの方法について振り返り、課題を行う (30分)		
4) プレゼンテーション① (主: 舟越、副: 長島) ・個々が興味・関心のある内容について調べ、プレゼンテーションしたい内容についてレポートを作成する。			興味・関心のあるテーマの資料を持参する (30～1時間)		
5) プレゼンテーション② (主: 長島、副: 舟越) ・パワーポイントの作り方について学ぶ。 ・作成したレポートを基にパワーポイントで資料作りをする。			プレゼンテーションしたい内容についてのレポートを完成させておく。 (30分～1時間)		
6) プレゼンテーション③ (主: 長島、副: 舟越) ・パワーポイントの資料作りを完成させる。 ・パワーポイントを用いた発表の仕方を学ぶ。			授業時間内に予定通りにパワーポイントの作成が進まなかった場合は、課外で作成を進める。 (1時間～2時間)		
7) プレゼンテーション④ (主: 長島、副: 舟越) ・発表の練習を行う。 ・各自作成したパワーポイントの資料を基にプレゼンテーションを行う (前半)			発表のための準備と練習をおこなう。 (30分)		
8) プレゼンテーション⑤ (主: 長島、副: 舟越) ・プレゼンテーションを行う (後半) と振り返り			発表のための準備と練習をおこなう。 (30分)		
[使用テキスト] ・各回で必要な資料を配布します。					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認 (50%)		第1回 (10%)、第3回 (20%)、第4回 (20%) の提出物			
② 実技・作品発表 (50%)		プレゼンテーションの資料 (20%)、プレゼンテーションの発表 (20%)、振り返りシート (10%)			
【定期試験】					
① 筆記試験 (%)					
② レポート (%)					
③ 実技試験 (%)					
④ 面接試験 (%)					

平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] レポートの評価のポイントを掲示する。	
[備考]・第3回以降は各自ノートパソコンを準備すること。また、所有するノートパソコンに「PowerPoint」がインストールされていない場合は、事務センターに大学のパソコンの貸し出しを申し出ること。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-45-09

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) キャリアアップ教育 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 社会に貢献できる人となるために、社会人として必要な知識、教養、コミュニケーション力、人間性を身につけることを目的とする。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] キャリア教育の第1段階と位置づけ、自己理解を深める。あわせて事業所研究を行い次年度の就職活動に備える。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①社会人としてのマナーを身につけることができる。 ②自己理解を深め、自己PR文を作成できる。 ③保育や幼児教育に関わる施設の種類と特徴を説明できる。 ④キャリアプランを作成できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション: 授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 マナー講座〈ゲストスピーカー、グループワーク〉: 外部講師 (キャリアコンサルタント) の講話を通して、実習先への電話のかけ方、訪問時のマナーを理解し、ロールプレイを通してマナーを身につける。					
2) 自己理解①〈グループワーク〉: 「自分再発見セッション」を通して、新たな自分のよさに気づき、ワークシートにまとめる。			自覚している自分の長所や強みを3つ考えておく。(1時間)		
3) 自己理解②〈ゲストスピーカー〉: 外部講師 (キャリアコンサルタント) の講話を通して、自己理解を深める。					
4) 自己理解③: 自己理解にもとづき、自己PR文を作成する。			第2回授業を踏まえて、自分の長所や強みの備わった経験を考えておく。(1時間)		
5) 事業所研究①〈グループワーク〉: 保育・幼児教育の資格で働くことのできる職種と事業所を調べ、ワークシートにまとめる。					
6) 事業所研究②: 就職希望先の事業所あるいは進学希望先の学校等を調べ、ワークシートにまとめる。			興味・関心のある事業所のHPを見ておく。(1時間)		
7) 事業所研究③〈グループワーク〉: 観察参加を体験した事業所について報告し合い、それぞれの事業所の特徴をワークシートにまとめる。					
8) 事業所研究④: 学内就職ガイダンスに参加し、事業所担当者の話を聴き、事業所の特徴等をワークシートにまとめる。2026年7月下旬予定			参加する事業所のHPを見ておく。(1時間)		
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (80%)	自己PR文、ワークシートの提出、記述、内容で評価する。				
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (20%)	記述、内容で評価する。				
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] ワークシートにはコメント付して返却する。					
[備考] ゲストスピーカーの都合で、授業回は変更になることがある。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-45-10

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) キャリアアップ教育Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	2セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 社会に貢献できる人となるために、社会人として必要な知識、教養、コミュニケーション力、人間性を身につけることを目的とする。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] キャリア教育の第2段階と位置づけ、労働理解と職業理解に基づき、就職先や進学先を想定した履歴書を作成する。あわせて事業所研究を行い次年度の就職活動に備える。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①お礼状を作成することができる。 ②労働に関する知識を深め、まとめることができる。 ③就職希望先や進学希望先を想定した履歴書を作成できる。 ④キャリアプランを作成できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション: 授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 お礼状: 実習を想定したお礼状を作成する。			実習の手引きの該当ページを読んでおく。(1時間)		
2) 労働理解①: 労働法と求人票の記載事項について理解し、ワークシートにまとめる。					
3) 労働理解②〈ゲストスピーカー〉: 講師(社労士)の講話を聴き、労働法の理解を深める。					
4) 履歴書①: 履歴書の記入・記述事項を確認し、氏名・学歴(職歴)・資格等をPC(Word)で作成する。			学歴(職歴)、取得している資格について調べておく。(1時間)		
5) 履歴書②: 自分の長所や強みを踏まえた自己PRをPC(Word)で作成する。			「キャリアアップ教育Ⅰ」の学習を踏まえた自己PRの文章を考えておく。(1時間)		
6) 履歴書③: 就職あるいは進学希望先を想定した志望動機をPC(Word)で作成する。			志望動機の文章を考えておく。(1時間)		
7) 事業所研究①: 就職希望先の事業所あるいは進学希望先の学校等を調べ、ワークシートにまとめる。			就職あるいは進学希望先を3つ程度考えておく。(1時間)		
8) 事業所研究②〈グループワーク〉: 実習先の保育の特色をまとめ、発表する。発表者以外は、各施設の特色をワークシートにまとめる。					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認(80%)	お礼状、ワークシートの提出、記述、内容で評価する。				
②実技・作品発表(%)					
【定期試験】					
①筆記試験(%)					
②レポート(20%)	記述、内容で評価する。				
③実技試験(%)					
④面接試験(%)					
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] ワークシートにコメント付して返却する。					
[備考] ゲストスピーカーの都合で、授業回は変更になることがある。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-45-11

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 図画工作		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	2セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 子どもの育ちを支える人となるために、保育・幼児教育における造形表現の知識と技能を習得する。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 造形表現活動に適した表現と鑑賞の活動を通して、感性を磨き、造形表現技能を習得し、表現のよさを感じ取る。表現材料や表現技法に応じた様々な表現を行い、作品鑑賞を通して表現の意図や工夫を読み取る。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①造形の基礎知識をまとめることができる。 ②表現方法、表現材料に応じて主題を発想し、主題に応じた表現の構想を練り、構想に応じて工夫して表現できる。 ③作品を鑑賞して、発想のよさや表現の工夫を感じ取ることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 子どもの造形表現の発達：子どもの平面造形表現（描画）の発達をワークシートにまとめる。			テキストの該当のページを読んでおく。(30分～1時間) 記録した画像をPCに保存できるようにしておく。		
2) 絵具の表現：ゆびえのぐを用いて、フィンガーペインティングの技法で表現する。作品は画像で記録しデータ提出する。					
3) 固形の描画材と絵具の表現：クレヨンとポスターカラーを用いて、パチックの技法で表現する。作品は画像で記録しデータ提出する。					
4) モダンテクニックの表現：ポスターカラーを用いて、スパッタリングの技法で表現する。作品は画像で記録しデータ提出する。作品の画像を記録する。					
5) 紙素材の表現①：色画用紙を用いて、はり絵の技法で表現する。作品は画像で記録しデータ提出する。					
6) 紙素材の表現②：紙製品を用いて、立体的に表現する。作品は画像で記録しデータ提出する。					
7) 粘土の表現：軽量紙粘土を用いて、立体的に表現する。作品は画像で記録しデータ提出する。					
8) 鑑賞：作品を鑑賞し、感じ取ったことを話し合い、発表し、ワークシートにまとめる。					
[使用テキスト] 上野 奈初美 編著 (2020) 『表現指導演法』 萌文書林 ※「幼児と表現」で使用					
[参考文献] 樋口 一成 編著 (2018) 『幼児造形の基礎』 萌文書林					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( 80%)		ワークシート (20%) と、作品 (60%) で評価する。ワークシートは提出：記述：内容=2：3：5、作品は主題：構想：表現=2：3：5で評価する。			
②実技・作品発表 ( ) %					
【定期試験】					
①筆記試験 ( ) %					
②レポート ( 20%)		ポートフォリオの形式で課す。記述：内容=1：4で評価する。			
③実技試験 ( ) %					
④面接試験 ( ) %					
平常点評価		<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 鑑賞 (第8回) で作品について講評する。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-10-17

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 音楽		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 長島 佳奈	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	1 Semester 卒業必修
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 楽譜を読むことができるようになるために、楽譜の理解に必要な基礎的な音楽理論を習得することを目的とする。また、子どもたちにとって身近な「歌」に着目し、歌唱をとおした音楽表現力を養うことも目的とする。具体的には、子どもの歌から広げることのできるリズム遊び、楽器遊び、身体遊びなど「音楽遊び」に発展することのできる力を養う。さらに、手遊び歌についても学修する。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 読譜に必要な基礎的な音楽理論について講義する。また、子どもの歌の世界観が広がる教材の取り入れ方について、教員が実践しながら説明する。さらに、子どもの歌をもとにしたリズム遊びや楽器遊びの展開法について講義と学生自身の実践を交えながらすすめていく。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・読譜のための基礎的な音楽理論や用語などを説明することができるとともに、歌唱やリズム奏をとおしてその知識と実践を結び付けることができる。 ・それぞれの子どもの歌の歌詞の内容を把握し、それに相応しい表現をすることができる。 ・子どもの歌から「音楽遊び」に発展する方法を理解することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 音楽理論①：五線、音部記号、音名、臨時記号、音符の長さ/ 子どもの歌①：子どもの歌のもつ性格					
2) 音楽理論②：休符の長さ、付点音符、連符、小節、演奏順序/ 子どもの歌②：春の歌			学習した箇所および配布プリント等の内容について再確認すること。(30分～1時間)		
3) 音楽理論③：拍と拍子、拍子記号、リズム、強弱記号/ 子どもの歌③：夏の歌			〃		
4) 音楽理論④：到達度確認小テスト、音程、全音と半音、アーティキュレーション/ 子どもの歌④：秋の歌			〃		
5) 音楽理論⑤：音階と調、発想標語、装飾音、奏法/ 子どもの歌⑤：冬の歌			〃		
6) 歌唱教材を用いたリズムづくり①、子どもの歌⑥：通年の歌			〃		
7) 歌唱教材を用いたリズムづくり②			歌唱発表会に向けてグループで練習しておくこと(30分～1時間)		
8) 発表会(グループ発表)、振り返り			〃		
[使用テキスト] 『子どものための音楽表現技術—感性と実践力豊かな保育者へ』萌文書林 『こどものうた100』チャイルド本社					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認(10%)		到達度確認小テスト(10%)、			
②実技・作品発表(50%)		グループ発表(20%)、発表の課題提出(10%)、振り返りシート(20%)			
【定期試験】					
①筆記試験(40%)					
②レポート(%)					
③実技試験(%)					
④面接試験(%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			

受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

[フィードバックの方法]

グループ発表後にフィードバックを行う。

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-10-18

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) インターンシップ I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤友彦・ゼミ担当教員	
授業の回数 10 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 1 セメスター	選択必修		
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] インターンシップを通して、福祉・教育現場の経験し、進路就職の選択肢を増やし、キャリア形成を図る。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 大学より提示のあった複数の事業所でインターンシップを行う。事前に計画を立て、前半は観察・参加、後半はボランティアとして活動する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 対象施設での活動を通して、対象施設、対象者 (子ども等)、職業を理解し、キャリア形成できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 計画：対象施設で行うインターンシップの計画を立てる。 【加藤・ゼミ教員】			事前に対象施設について調べておく。 (1～2 時間)		
2) 観察・参加①：対象施設 A で事業内容を把握する。必要に応じて、子ども等とかかわる。 ※半日活动					
3) 観察・参加②：対象施設 B で事業内容を把握する。必要に応じて、子ども等とかかわる。 ※半日活动					
4) 観察・参加③：対象施設 C で事業内容を把握する。必要に応じて、子ども等とかかわる。 ※半日活动					
5) 振り返り【全教員】：第 2～4 回の活動報告をする。			活動報告の概要を作成する。(1 時間)		
6) ボランティア①：対象施設 A で子ども等と関わる。 ※半日活动					
7) ボランティア②：対象施設 B で子ども等と関わる。 ※半日活动					
8) ボランティア③：対象施設 C で子ども等と関わる。 ※半日活动					
9) ボランティア④：対象施設で子ども等と関わる。施設は、A～C の中から任意で選ぶ。 ※半日活动					
10) ボランティア⑤：対象施設で子ども等と関わる。施設は、A～C の中から任意で選ぶ。 ※半日活动					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( 10%)		第 1 回の計画の記述、内容。			
②実技・作品発表 ( 10%)		第 5 回報告の様子。			
【定期試験】					
①筆記試験 ( %)					
②レポート ( 80%)		インターンシップ全体の活動報告。			
③実技試験 ( %)					
④面接試験 ( %)					
平常点評価		<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 第 5 回の活動報告で、各教員よりコメントをする。レポートにコメントを付し返却する。					
[備考] 対象施設での活動は、大学の授業のない日 (土日原則) とする。また、順番は、対象施設の都合により、上記日程から入れ替わることがある。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) インターンシップⅡ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤友彦・ゼミ担当教員	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	2・3セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] インターンシップを通して、福祉・教育現場の経験し、進路就職の選択肢を増やし、キャリア形成を図る。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 大学より提示のあった事業所でインターンシップを行う。事前に計画を立て、ボランティアとして活動をし、活動後に報告をする。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 対象施設での活動を通して、対象施設、対象者 (子ども等)、職業を理解し、キャリア形成できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 計画：対象施設で行うインターンシップの計画を立てる。 【加藤・ゼミ教員】			インターンシップⅠの活動踏まえ、計画を練っておく。(1～2時間)		
2) ボランティア①：対象施設Aで子ども等と関わる。 ※半日活动					
3) ボランティア②：対象施設Bで子ども等と関わる。 ※半日活动					
4) ボランティア③：対象施設Cで子ども等と関わる。 ※半日活动					
5) ボランティア④：対象施設で子ども等と関わる。施設は、A～Cの中から任意で選ぶ。 ※半日活动					
6) ボランティア⑤：対象施設で子ども等と関わる。施設は、A～Cの中から任意で選ぶ。 ※半日活动					
7) 発表：第2～6回の活動報告をする。【全教員】			活動報告の概要を作成する。(1～2時間)		
8) 学内就職ガイダンス：学内就職ガイダンスに参加する。 ※7月下旬予定、3セメスター分					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (10%)		第1回の計画の記述、内容。			
②実技・作品発表 (10%)		第7回の発表の様子。			
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (80%)		インターンシップ全体の活動報告。			
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 第7回の活動報告で、各教員よりコメントをする。レポートにコメントを付し返却する。					
[備考] 対象施設での活動は、大学の授業のない日 (土日原則) とする。また、順番は、対象施設の都合により、上記日程から入れ替わることがある。 この科目を履修するためには、「インターンシップⅠ」を履修しなければならない。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-45-15

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育原理		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 深見 俊崇	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] ディプロマポリシーに掲げられる「専門的知識に基づき、子どもの最善の利益を尊重することができる」「社会のあり方について考える・実践する」を踏まえ、保育の基本原則や保育の意義を理解し、説明できるようにすることをねらいとする。そのために、子どもの発達、保育の歴史的変遷や現代的課題、保育者の役割や保育所保育の全体像について学ぶ。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 保育の目的・目標、保育者の役割や子どもの発達を確認した上で、保育の方法や環境構成、指導計画の重要性について事例を挙げながら理解を深めていく。そして、保育における歴史的変遷を整理したり保育における現代的課題を検討したりすることで、望ましい保育とは何かについて受講者に考えてもらいたい。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
1. 保育の意義とその必要性を説明できる。 2. 保育所・幼稚園・認定こども園の役割、そこで勤務する保育者の役割を説明できる。 3. 保育における歴史的変遷と現代的課題について説明できる。 4. 講義内容を踏まえて、目指すべき保育実践のイメージを形成し、それを言語化できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 保育を捉える視点と意義【グループワーク】			予習 (テキスト第1章) (1時間程度)		
2) 子どもの発達の理解			予習 (テキスト第4章) (1時間程度)		
3) 保育の基本① (保育所保育指針等)			予習 (テキスト第3章) (1時間程度)		
4) 保育の基本② (内容・領域等)			予習 (テキスト第3章) (1時間程度)		
5) 保育における計画の必要性			予習 (テキスト第5章) (1時間程度)		
6) 保育形態と保育の方法【グループワーク】			予習 (テキスト第6章) (1時間程度)		
7) 保育者の専門性【ディスカッション】			予習 (保育者の専門性に関する資料) (1時間程度)		
8) 保育者の専門性 (園内外との連携)【ディスカッション】			予習 (専門機関との連携に関する資料) (1時間程度)		
9) 保育における歴史的変遷 (欧米)			予習 (テキスト第8章+資料) (1時間程度)		
10) 保育における歴史的変遷 (戦前)			予習 (テキスト第8章+資料) (1時間程度)		
11) 保育における歴史的変遷 (戦後)			予習 (テキスト第8章+資料) (1時間程度)		
12) 幼保一体化と新システム【ディスカッション】			予習 (テキスト第2章) (1時間程度)		
13) 地域の子育て支援【ディスカッション】			予習 (テキスト第7章) (1時間程度)		
14) 保育における現代的課題【ディスカッション】			予習 (テキスト第9章) (1時間程度)		
15) これから求められる保育を考える			これまでの授業の復習 (1時間程度)		
[使用テキスト] 吉見昌弘・斎藤裕 (編) 『はじめて学ぶ保育原理[新版]』北大路書房					
[参考文献] 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 『保育小事典』大月書店					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (40%)		授業中のワーク, 振り返り, オンライン小テスト			
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (60%)		筆記による試験			
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					

④面接試験（ %）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 毎回のコメントをまとめたプリントを配布し、解説を行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-19

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 教育原理		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 塩津 英樹	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 子供の最善の利益を尊重し、教育・保育・子供に関する専門的な知識を身につけ、実践できる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] ①教育の意義と本質、②教育と子供の福祉、③教育を成立させる諸要因、④教育の思想と歴史、⑤現代社会における教育課題などについて講義する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 教育の意義と本質について自らの考えを深め、歴史的な視点から教育および学校の営みを捉えることで、教育の歴史、教育家の思想、近代教育制度の成立と展開、現代社会における教育課題など、教育に関する専門的な知識を説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション -教育学の基礎概念-			予習 (教科書 p8-21 頁) (1 時間)		
2) 教育の意義と本質 (1) -教育の定義と目的-			予習 (教科書 p22-28 頁) (1 時間)		
3) 教育の意義と本質 (2) -乳幼児期における教育の目的-			予習 (教科書 p29-35 頁) (1 時間)		
4) 教育と子供の福祉 -子供の権利を中心に-			予習 (教科書 p38-45 頁) (1 時間)		
5) 教育を成立させる諸要因 (1) -子供・家庭- (グループワークを含む)					
6) 教育を成立させる諸要因 (2) -教員・学校- (グループワークを含む)					
7) 近代教育制度の成立と展開 -公教育を中心に-			予習 (教科書 p88-108 頁) (1 時間)		
8) 教育の歴史 (1) -古代から中世までの歴史を中心に-			予習 (教科書 p56-85 頁) (1 時間)		
9) 教育の歴史 (2) -近代から現代までの歴史を中心に-			講義で扱ったテーマについてワークシートに記入する。(30分間)		
10) 教育家の思想 (1) -ロック、ルソーの思想を中心に-			講義で扱ったテーマについてワークシートに記入する。(30分間)		
11) 教育家の思想 (2) -新教育の理念と実践-			講義で扱ったテーマについてワークシートに記入する。(30分間)		
12) 現代社会における教育課題 (1) -不登校・いじめ問題をを中心に-			講義で扱ったテーマについてワークシートに記入する。(30分間)		
13) 現代社会における教育課題 (2) -グローバル化と異文化理解-			予習 (教科書 p178-184 頁) (1 時間)		
14) 現代社会における教育課題 (3) -社会参画と教育-					
15) 現代社会における教育課題 (4) -自己実現と職業生活-					
[使用テキスト] 『最新 保育士養成講座』総括編纂委員会編『第2巻 教育原理』全国社会福祉協議会、2019年。					
[参考文献] 講義の中で、適宜紹介する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( % )					
②実技・作品発表 ( % )					
【定期試験】					
①筆記試験 (100%)					
②レポート ( % )					
③実技試験 ( % )					
④面接試験 ( % )					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 提出された課題について、次回の講義冒頭時に解説し、フィードバックを行う。					

[備考] 双方向による授業を行うとともに、グループワークを取り入れた対話的な学びを実現する。  
受講にあたっては、遅刻や私語等は厳に謹んでください。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-20

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 発達心理学		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 藤 翔平	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 発達心理学の理論や知見を学び、子どもの心身の発達に応じた保育・教育について理解できるようになる。また、発達障害について学ぶことを通して、特別なニーズのある子どもの保育・教育についても考察できるようになる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 乳幼児期を中心に、子どもが発達する過程について様々な理論や知見を紹介しながら説明する。また、発達障害についても、乳幼児期で注意すべき点を踏まえながら、求められる保育について解説する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 乳幼児期の子どもが発達に関して、多様な理論や知見を基に解釈し、説明することができる。 2. 発達障害など特別なニーズのある子どもに関する知識を身に付け、具体的な支援を考察できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 発達心理学とは			授業後、コメントシートを作成する。また、次回に向けた参考資料を読む。(1時間)		
2) 発達に関する理論			同上		
3) 胎児期の発達			同上		
4) 愛着の発達			同上		
5) 思考の発達			同上		
6) ことばの発達			同上		
7) 自己の発達			同上		
8) 社会情動的発達			同上		
9) 就学に向けた子どもの発達			同上		
10) 子どもの学びに関わる理論			同上		
11) 児童期・青年期以降の発達			同上		
12) 発達におけるつまずきの理解			同上		
13) 障害のある子どもの理解と援助			同上		
14) まとめ			試験勉強を行う(4時間)		
15) 授業内試験					
[使用テキスト] 中央法規『新・基本保育シリーズ8 保育の心理学』杉村伸一郎・山名裕子(編)					
[参考文献] 必要に応じて配布する					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認(100%)		各授業の後に提出するコメントシート(40%)と 15回目の授業で行う論述試験(60%)の結果を基に評価する。			
②実技・作品発表( )%					
【定期試験】					
①筆記試験( )%					
②レポート( )%					
③実技試験( )%					
④面接試験( )%					
平常点評価		<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] コメントの内容について、次回授業時に紹介する形で行う。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-21

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育内容 (総論)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 舟越 美幸	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		元保育士の経験から、保育内容について実践的にお伝えします。			
[授業の目的・ねらい] 保育所・幼稚園・認定こども園における保育内容を総合的に理解し、5領域の内容を関連づけて保育の計画から実践を展開することのできる基礎を身に付ける。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] ・保育内容の構造について学ぶとともに、現場で保育にあたるゲストスピーカーによる講話を通して様々な保育の形態や子ども理解のための保育者の姿勢を知る。 ・5領域から保育のねらいや内容に関わる視点を持ち、保育環境について模擬保育に向けたグループワークを通して検討を重ねる。 ・実際に保育の計画と実践を行い、それらを総合的に振り返ることで保育内容総論の学びを得る。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・保育内容の構造について5領域の視点から総合的に学ぶとともに、ゲストスピーカーの講話を通して多様な保育や保育者の姿勢についての理解を深める。 ・グループワークを通して互いに意見を出し合うことで、保育方法について多角的な視点を持つ。 ・指導案作成と模擬保育から、保育内容について総合的な視点を持って保育を捉えることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ・ガイダンス ・保育所保育指針解説 「保育の方法及び5領域」 ・子どもの育ちを支える保育環境と子ども観・遊び観・保育観 ・環境構成のポイント「子どもの発達・興味や関心・自発性」			保育所保育指針解説の指定された箇所について内容をまとめたり、コーナー保育の教材を考えたりし、期限までに提出すること。 (1h)		
2) コーナー保育の指導案作成 (グループワーク) ① ・グループ別に年齢に応じた遊びを考案する。 ・選択した遊びに必要な教材や用具等について話し合う。			指導案が授業内に完成しなかった場合は、グループ全体で期限までに作成し、提出すること。(1~2h)		
3) コーナー保育の指導案作成 (グループワーク) ② ・玩具を作ったり、遊んで試したりしながら教材研究を行う。 ・「予想される子どもの活動」と「学生の援助」を考え、コーナー保育の指導案を立案する。					
4) 指導案修正及び教材研究・模擬保育の事前準備 (グループワーク) ・立案した指導案を基に、役割を分担し模擬保育の準備を行う。			教材の準備が授業内にできなかった場合は、グループ全体で期限までに準備すること。 (1~2h)		
5) 教材研究・模擬保育に向けた事前準備 (グループワーク) ・立案した指導案を基に、模擬保育の役割分担等について話し合う。 ・実践した内容を基に、保育マップ型記録を完成させる。			前日夕方に、教材の準備をします。(0.5h)		
6) 指導案に基づく模擬保育 (グループワーク) ・外部施設の4・5歳児クラスを訪れ、実践的に学ぶ。					
7) 模擬保育の振り返り (ディスカッション) ・模擬保育についてグループごとに振り返り、環境の再構成について話し合い、グループ別に発表する。					
8) 模擬保育の実践及び記録 ・模擬保育から、エピソード記述型の記録を書き、子ども理解や、学生自身の関わりについて振り返る。			エピソード記述型の記録ができなかった場合は、家庭学習として取り組むこと(2h)		
[使用テキスト] ・厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館					
[参考文献]					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (90%)		第1回保育所保育指針のまとめ(10%)・教材の考案(20%)、第3回指導案①(15%)、第4回指導案②(15%)、第7回模擬保育の振り返り(30%)			

②実技・作品発表（10%）	エピソード型の実習日誌（10%）
【定期試験】	
①筆記試験（%）	
②レポート（%）	
③実技試験（%）	
④面接試験（%）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーナー保育の指導案作成は教員の添削によりグループ別に指導を行う。</li> <li>・模擬保育は第7, 8回においてコメントをする。</li> </ul>	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-22

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) ピアノ表現		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 長島 佳奈	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	1単位	配当	1 Semester 卒業必修
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 子どもの豊かな感性と表現力を引き出すために、幼稚園教員や保育者として身につけておくべき基礎的なピアノ技術を習得することを目的とする。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 習熟度に応じた個別レッスンを展開する。『バイエル』にてピアノの基礎技術の習得を図りながら、歌唱共通教材や『こどものうた』等で扱われるような曲の弾き歌いのレッスンを行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ピアノの基礎技術を習得し、ピアノ曲や弾き歌いを演奏することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション/楽曲の選定					
2) バイエル 3～11/4～6月の歌の伴奏			事前に指定される課題について、授業時間外で十分に練習を行ったうえで授業に臨むこと。また、練習状況を記録し、自分の状況を自覚しながら学習を進めること。(1～3時間)		
3) バイエル 12～18/4～6月の歌の弾き歌い			〃		
4) バイエル 19～25/7～9月の歌の伴奏			〃		
5) バイエル 26～28/7～9月の歌の弾き歌い			〃		
6) バイエル 29～31/10～12月の歌の伴奏			〃		
7) バイエル 32～34/10～12月の歌の弾き歌い			〃		
8) 中間発表会 (ピアノ曲と弾き歌い) 担当教員による講評および受講生同士の振り返り					
9) バイエル 35～37/1～3月の歌の伴奏			〃		
10) バイエル 38～40/1～3月の歌の弾き歌い			〃		
11) バイエル 41～44/通年の歌の伴奏			〃		
12) バイエル 45～46/通年の歌の弾き歌い			〃		
13) バイエル 47～50/生活の歌の伴奏と弾き歌い			〃		
14) 発表会に向けての仕上げ			〃		
15) 発表会			〃		
[使用テキスト] 『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版 『こどものうた100』チャイルド本社 適宜、個人の習熟度に合わせて様々なテキストを薦める。					
[参考文献] 『ブルグミュラー25の練習曲集』全音楽譜出版社					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( % )					
②実技・作品発表 ( 100% )		中間発表会(40%)、発表会(60%)で評価します。			
【定期試験】					
①筆記試験 ( % )					
②レポート ( % )					
③実技試験 ( % )					
④面接試験 ( % )					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]					

毎回の授業時に、担当教員より課題に対するフィードバックを行う。発表会では講評および振り返りを行う。

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-23

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 教職論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 深見 俊崇	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] ディプロマポリシーに掲げられる「専門的知識に基づき、子どもの最善の利益を尊重することができる」「社会のあり方について考える・実践する」を踏まえ、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について学び、教職のあり方を考察することを通して、自身の適性を判断したり、進路選択の方向性について検討したりすることをねらいとする。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 社会・文化的環境の変化に伴い、保育ニーズは年々多様化しており、幼稚園教諭・保育士等の保育者の役割と責務はますます重要なものとなっている。本科目では、主に幼稚園教諭の役割、責務、専門性、倫理などを理解した上で、改訂された幼稚園教育要領の方向性を学びながら、これから求められる教職（保育職）のあり方を検討していく。それらを基に教育実習をはじめとするそれぞれの科目の学びの基盤を形成していく。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
1. 公教育としての保育の役割とそれを担う幼稚園教諭・保育士の職務内容を具体的に説明できる。					
2. 幼稚園教諭・保育士の専門性と求められる倫理について具体的に説明できる。					
3. 歴史的な背景を踏まえながら、現在求められる教職（保育職）の役割について説明できる。					
4. 講義内容を踏まえて、目指すべき保育者像を形成し、それを言語化できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 保育者の存在意義と役割			予習（テキスト第1章）（1時間程度）		
2) 期待される保育者像			予習（テキスト第2章、第3章） （1時間程度）		
3) 幼稚園教諭・保育士の要件と責務			予習（テキスト第3章、第4章） （1時間程度）		
4) 幼稚園教諭・保育士の職務内容（幼稚園教諭の仕事）			予習（テキスト p.42-44, 資料） （1時間程度）		
5) 幼稚園教諭・保育士の職務内容（保育士の仕事）			予習（テキスト p.40-42）（1時間程度）		
6) 幼稚園教諭・保育士に求められる資質能力【ディスカッション】			予習（テキスト第6・7章）（1時間程度）		
7) 幼稚園教諭・保育士の職務内容（保護者との協働）【ディスカッション】			予習（テキスト第10章）（1時間程度）		
8) 幼稚園教諭・保育士の職務内容（園内外との連携・協働：チーム学校）【ディスカッション】			予習（テキスト第11章）（1時間程度）		
9) 保育職の歴史と保育者観（欧米）			予習（保育原理テキスト第8章＋資料） （1時間程度）		
10) 保育職の歴史と保育者観（戦前）			予習（保育原理テキスト第8章＋資料） （1時間程度）		
11) 保育職の歴史と保育者観（戦後）			予習（保育原理テキスト第8章＋資料） （1時間程度）		
12) 新しい幼稚園教育要領等で目指すべき保育の方向性			予習（幼稚園教育要領）（1時間程度）		
13) 現代的課題と保育職の役割（グローバル化、保育ニーズの変化）【ディスカッション】			予習（テキスト第13章）（1時間程度）		
14) 現代的課題と保育職の役割（子育て支援等）【ディスカッション】			予習（子育て支援資料）（1時間程度）		
15) 学び続ける保育職を目指して			これまでの授業の復習（1時間程度）		
[使用テキスト] 佐藤哲也編『子どもの心によりそう保育者論【改訂版】』福村出版					
[参考文献] 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 『保育小事典』大月書店					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（40%）		授業中のワーク，振り返り，オンライン小テスト			
②実技・作品発表（%）					

【定期試験】	
①筆記試験（60%）	筆記による試験
②レポート（%）	
③実技試験（%）	
④面接試験（%）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 毎回のコメントをまとめたプリントを配布し、解説を行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-24

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 幼児と健康		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 中谷 昌弘	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	2セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(高等学校)での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を進め教員免許取得に関する授業を展開する。				
[授業の目的・ねらい] 保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「健康」領域を踏まえ、健康な心と体を育てるために子どもの心身の発達、運動発達、健康・安全管理について理解する。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「健康」領域を理解し、健康な心と体を育てるために子どもの心身の発達、運動発達、健康・安全管理について学修する。健康管理や安全教育に関する内容では、健康で安全な生活を営む力を身につける保育・教育のあり方を学修すると共に、子どもの生活リズムと睡眠、生活習慣の形成や病気の予防、安全への配慮、子どもの事故の対応について理解を深める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] (1) 保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「健康」領域についてのねらいと内容について理解することができる。 (2) 子どもの身体発達、運動発達等について特徴と意義を理解することができる。 (3) 子どもの健康管理や安全教育に関わる指導の観点について理解することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) 保育指針・教育要領・教育保育要領にみる、領域「健康」のねらいと内容					
2) 子どもの健康課題と健康の定義、意義					
3) 子どもの体の諸機能発達と特徴					
4) 子どもの運動発達の特徴と意義の理解					
5) 子どもの事故、事故とその処置及び安全への配慮とけがの予防					
6) 子どもの生活習慣の形成及び病気の予防、紫外線対策					
7) 子どもの生活リズムと睡眠、食、排泄					
8) 子どもの健康に関する課題と展望・まとめ					
[使用テキスト] ・文部科学省「幼稚園教育要領」 ・厚生労働省「保育所保育指針」 ・内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」					
[参考文献] 必要に応じてプリントなどを配布					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認 ( % )					
② 実技・作品発表 ( % )					
【定期試験】					
① 筆記試験 ( % )					
② レポート (100%)		毎回授業中に行う8回分の確認テスト			
③ 実技試験 ( % )					
④ 面接試験 ( % )					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] ・提出された確認テストについて講義時に解説し、フィードバックを行う。					
[備考] ・グループワーク、ディスカッションへの積極的な参加を期待します。 ・集中講義 2026年8月27.28日(各2コマ)、31日(4コマ)					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-26

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 幼児と人間関係		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 小林 美沙子	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	教育機関 (幼稚園教諭) での勤務経験があり、その経験を活かしてより具体的・実践的な授業を展開する。				
[授業の目的・ねらい] 乳幼児期の人間関係における理論や重要な育ちの要素について学び、理解することを目的とする。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] 領域「人間関係」の指導の基盤となる関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団の中で幼児期の人と関わる力が育つことについて理解を深める。そのため、幼児期の人間関係の発達の姿が具体的にイメージしやすいように、協同性の志立、道徳性・規範意識の育ちなど、具体的な事例を基に理解を深めていく。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
① 現代の幼児の人間関係に影響を与えている社会的要因について理解する。					
② 領域「人間関係」の指導の基盤となる他者や集団との関係を通じた幼児期の人とかかわる力が育つことを理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 乳幼児を取り巻く現代社会と人間関係			授業内で配布された資料に目を通す(15分)		
2) 3歳未満児における人とかかわり—身近な大人との関係を基盤として育つ姿			授業内で配布された資料に目を通す(15分)		
3) 3歳児の発達と人とかかわり—保育者との関係を基盤として育つ姿			授業内で配布された資料に目を通す(15分)		
4) 4歳児の発達と人とかかわり—友達関係の広がり			授業内で配布された資料に目を通す(15分)		
5) 5歳児の発達と人とかかわり—友達関係の深まり			授業内で配布された資料に目を通す(15分)		
6) 幼児期の協同性の育ち			授業内で配布された資料に目を通す(15分)		
7) 幼児期の道徳性・規範意識の育ち			授業内で配布された資料に目を通す(15分)		
8) 幼児期に育みたい資質・能力と人間関係			学んだ内容を総復習しておく(30分)		
[使用テキスト] 「幼稚園教育要領解説」文部科学省、フレーベル館、2018					
[参考文献] 「社会情動的スキルを育む「保育内容人間関係」：乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは」無藤隆・古賀松香、北大路書房、2016					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( 60%)		授業内に提示される課題 (授業の振り返りシート8回, ワークシート1回)			
②実技・作品発表 ( %)					
【定期試験】					
①筆記試験 ( %)					
②レポート ( 40%)					
③実技試験 ( %)					
④面接試験 ( %)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 提出された課題に対して、授業内で解説し、フィードバックを行う。					
[備考] なし					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-27

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 幼児と環境		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦・舟越 美幸・堅田 弘行	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 専門的知識と技能の下に、子どもの発達を保障できることを目的とする。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記載されている領域「環境」をもとに、子どもと人・自然とのかかわりを理解できるようにする。また、実際に身近な自然や材料を活用した製作を経験する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①領域「環境」にかかわる保育内容を説明できる。 ②身近な自然や材料を用いて工夫して製作できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 領域「環境」：領域「環境」の概要をワークシートにまとめる。 自然にかかわる：自然にかかわる力の必要性を理解する。【主・加藤】			テキスト1章、3章を読んでおく。 (2時間)		
2) 自然にかかわる② (ゲストスピーカー)：「四季の学び舎」の活動に参加し、自然体験をする。【主・舟越】			参加したい活動にエントリーし、活動場所への交通手段等を調べておく。(1時間)		
3) 人とかかわる：保育者や友だちとの関係の中で、子どもの「環境にかかわる力」の発達について理解する。【主・舟越】			テキスト2章、4章(1～3節)を読んでおく。 (2時間)		
4) ものや道具にかかわる：ものや道具にかかわる力の必要性を理解し、泥団子づくりをする。【主・加藤】			テキスト5章を読んでおく。(1時間)		
5) 日常生活の中での興味・関心：日常生活の中での興味・関心の必要性を理解し、リサイクル材を素材とした「おもちゃづくり」をする。 【主・加藤】			テキスト6章を読んでおく。(1時間)		
6) 環境構成：保育における環境構成の捉え方と計画的な構成について理解する。【主・舟越】			テキスト7章を読んでおく。(1時間)		
7) 身近な植物とかかわる：自然の中の身近な植物とふれあい、その意義を考察する。【主・堅田】			テキスト4章(4～5節)10～11章を読んでおく。(2時間)		
8) 安全な環境、まとめ：子どもにとって安全な環境づくりについて理解する。【主・加藤】			テキスト8章、12章を読んでおく。(2時間)		
[使用テキスト] 上中 修 編(2023)『保育実践に生かす保育内容「環境」』教育情報出版					
[参考文献] 厚生労働省『保育所保育指針』、文部科学省『幼稚園教育要領』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (80%)		ワークシート等の提出、記述、内容と、製作物の提出、内容で評価する。			
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (20%)		記述と内容で評価する。			
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 製作物について、そのポイントを授業後に解説する。					
[備考] 授業時の気象条件によって、授業の順は入れ替わることがある。第2回の参加費は別途徴収。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-28

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 幼児と言葉		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 増原 真緒・橋本 祐治	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	現場保育者 (増原) および小学校教諭 (橋本) の経験を活かし、領域「言葉」の視点から保育の実際や幼児期の言葉について伝えます。				
[授業の目的・ねらい] ・保育・教育における保育内容「言葉」のねらい及び内容について、その位置づけと内容を理解する。 ・子どもの言葉の発達と保育者の援助について理解し、主体的かつ対話的な関わりを意識して保育にあたる力を身に付ける。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] 担当教員による講義内容を基に、学生自身が実践的に領域「言葉」の構造および保育現場において必要な視点について学びを深める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・保育および幼児教育における保育内容「言葉」のねらい及び内容について、その位置づけと内容を理解する。 ・子どもの言葉の発達と保育者の援助について理解し、主体的かつ対話的な関わりを意識して子どもに関わることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ・保育における「言葉」とは (増原) (領域「言葉」のねらい及び内容について学ぶ) 使用テキスト：①②					
2) ・乳幼児における子どもの言葉の発達 (増原) 使用テキスト：②					
3) ・おはなしのそら (絵本からのおはなしづくり) ① (増原) ・子どもをとりまく「言葉」の環境 使用テキスト：②					
4) ・おはなしのそら (1枚の絵からのおはなしづくり) ② (増原) ・保育者の言葉の影響と子どもの言葉を豊かにする関わり・援助					
5) ・想像から豊かな言葉への関連と影響 (増原) ・豊かな経験の重要性					
6) ・話し言葉と書き言葉 (ことば遊びの演習) (増原)					
7) ・保育・幼児教育施設から小学校への繋がり (橋本) ・教材活用の実践① (増原) (パネルシアター、ペープサート、エプロンシアター等の活用方法)					
8) ・教材活用の実践② (紙芝居の種類、その意義と活用方法) (増原) ・子どもの声を「きく」こと ・領域「言葉」をどう捉えるか (最終レポート：到達度の確認)			※期日までに最終レポートを完成させ、提出すること。(2時間程度)		
[使用テキスト] ① 文部科学省、『幼稚園教育要領解説』、2018、フレーベル館 ② 望月雅和、『子育てとケアの原理』新版、2022、北樹出版 ・その他、適宜資料を配布する。					
[参考文献] ・内藤知美、『コンパス 保育内容 言葉』、2017、建帛社 ・田中謙、『デザインする保育内容指導法「言葉」』、2019、教育情報出版 ・大越和孝ほか、『保育内容「言葉」言葉とふれあい、言葉で育つ』、2018、東洋館出版社 ・秋田喜代美、『子どもの姿からはじめる領域・言葉』、2020、みらい ・小櫃智子ほか、『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』2017、わかば社					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (20%)	第3・4回:お話づくりワークシートの提出および内容 (20%)				
②実技・作品発表 ( )%					
【定期試験】					
①筆記試験 ( )%					
②レポート (80%)	全授業の終了後に提出するレポートを含め、授業内容の積み上げをポートフォリオで評価する。				

	※全回終了後のファイル提出（提出の有無，資料の有無，メモの記載が評価ポイント） （50%） 全回終了後の総合レポートの内容（30%）
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 各回の授業の最後に質問および解説の時間を設けます。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-29

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 幼児と表現		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦・増原 真緒・長島 佳奈 (オムニバス)	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	2 Semester / 幼免必修/資格必修
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	元保育士の観点から、幼児の表現活動における保育の実際や実践等について伝えます。(増原)				
[授業の目的・ねらい] 幼児の表現を支える保育者としての感性や創造性を養うことを目的とする。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 幼児の表現を理解し、領域「表現」の内容を踏まえ、幼児の感性や創造性を豊かにするための、知識・技能・表現力を体験的に習得する。また、自然・生活・人的環境から、身体性を喚起し豊かな感性につなげる。そして、豊かな感性、幼児の生活や遊び、様々な児童文化財から表現活動を構想し、多様な表現活動を展開する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①領域「表現」の位置づけを説明することができる。 ②幼児期の様々な表現を体験することを通して、基礎的な知識、技能を習得する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション: 授業の概要を理解し、学習の見通しを持つ。 表現: 領域「表現」のねらいおよび内容を理解する。【加藤】			テキストの該当箇所読んでおく。(1時間)		
2) 音楽を主とした表現活動①: 身の周りの音集めをし、集めた音のカタログ作りを行う。集めた音のイメージを絵に描き、自然物や廃材、楽器等を用いた音の表現を考え、発表に向けて準備する。【長島】					
3) 音楽を主とした表現活動②: グループごとに練習を行い、発表する。 第2、3回の音の創作活動と発表の振り返りを行いながら、子どもの音楽表現について理解を深める。【長島】					
4) 身体表現による表現活動①: 絵本『もこもこもこ』を題材とした身体表現の構想・準備・練習【増原】					
5) 身体表現による表現活動②: 絵本『もこもこもこ』を題材とした身体表現のリハーサル・発表【増原】					
6) 造形を主とした表現活動①: 光と影を用いた表現活動をする。【加藤】			テキストの該当箇所読んでおく。(1時間)		
7) 造形を主とした表現活動②: 描画材を用いた表現活動をする。【加藤】			テキストの該当箇所読んでおく。(1時間)		
8) 造形を主とした表現活動③: 紙を用いた表現活動をする。【加藤】			テキストの該当箇所読んでおく。(1時間)		
[使用テキスト] 上野 奈初美 編著 『表現指導法』 萌文書林					
[参考文献] 樋口 一成 編著 『幼児造形の基礎』 萌文書林					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (65%)	【加藤担当回】 (45%)	ワークシートの提出、記述、内容 (20%) と、作品の提出と内容 (25%) によって評価する。			
	【増原担当回】 (10%)	第4~5回における構想ワークシートの提出と内容 (5%)、気づき・振り返りワークシートの提出期限厳守と内容 (5%)			
	【長島担当回】 (10%)	製作物 (5%)、振り返りシート (5%)			
②実技・作品発表 (15%)	【加藤担当回】 (5%)	発表			
	【増原担当回】 (5%)	発表			
	【長島担当回】 (5%)	発表			
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (20%)	幼児期における「表現」の重要性についての試験レポートを実施する。				
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法]					

【加藤担当回】 ワークシートにコメント付して返却する。作品は鑑賞時に講評する。

【増原担当回】 発表後に身体表現についてのポイントと観点についてコメントする。

【長島担当回】 グループ発表の後に総評・コメントをする。振り返りシートにコメントを記述して返却する。

[備考] 気象条件によって授業順は変更になることがある（加藤担当回）。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-30

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育内容 (言葉)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 増原 真緒	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	現場保育経験から、「言葉」に着目した保育内容の構造や計画と実践についてお伝えします。				
[授業の目的・ねらい] ・保育・教育における保育内容「言葉」のねらい及び内容について理解した上で、主体的かつ対話的な関わりを意識した保育における言葉の指導法を身に付ける。 ・子どもの言葉を豊かにする児童文化財の活かし方と実践について知識を深め、言葉遊びの指導・実践するための力を身に付ける。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] 担当教員による講義および演習を基に、学生自身が実践的に言語表現技術および児童文化財について学びを深め、それらを活用した指導案作成や模擬実践に取り組む形で授業を構成する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・子どもに対する保育者の援助や言語表現技術について理解し、主体的かつ対話的な関わりを意識して言語表現を用いた実践にあたることができる。 ・子どもの言葉を豊かにする児童文化財の活かし方と実践について知識を深め、指導案の作成および保育における言葉遊びの指導・実践に活かすことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ・ガイダンス：領域「言葉」とは(確認) ・言語表現技術の習得：絵本の役割と活用の実践 (種類, その意義と活用方法)					
2) ・言語表現技術の向上① (わらべうたの実践)					
3) ・「言葉」に着目した指導案の作成方法の教示 ・保育における導入					
4) ・指導案の作成			※第4回から、第6～7回で実施する模擬保育までに指導案の作成をしますが、教員による添削指導および学生自身の修正作業は授業外の時間に個別に行います。提示された最終提出日に間に合うよう計画的に作成および修正作業に取り組んでください。(1～3時間程度)		
5) ・言語表現技術の向上② (ゲストスピーカー：学内教員) (手遊び, 音と声を使ったふれあい遊びと身体遊び)					
6) ・作成した指導案に基づいた模擬保育の実施① (保育者役と子ども役に分かれて順に, 手遊びおよび絵本の読み聞かせを行う)					
7) ・作成した指導案に基づいた模擬保育の実施② (保育者役と子ども役に分かれて順に, 手遊びおよび絵本の読み聞かせを行う) ・模擬保育の振り返りおよび教員からの総評					
8) ・作成した保育指導案を他者とディスカッションし, 記述方法と内容の検討から理解を深める。〈グループワーク・ディスカッション〉 ・まとめ：言葉遊びについての指導案と保育の展開の実際 (最終レポート)			※期日までに最終レポートを完成させ, 提出すること。(1～2時間程度)		
[使用テキスト] ・実習運営委員会, 『実習ガイドブック』, 2024, 大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 (松江キャンパス) ・「幼児と言葉」でまとめた資料ファイル ・その他, 適宜資料を配布する。					
[参考文献] ・小櫃智子ほか, 『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』, 2017, わかば社					

[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（40%）	ゲストスピーカー招聘回の振り返りの提出および内容（10%），指導案の提出および内容と修正（20%），模擬保育振り返りの提出及び内容（10%）を総合的に評価します。
②実技・作品発表（40%）	第6～7回の模擬保育について評価します。
【定期試験】	
①筆記試験（%）	
②レポート（20%）	全授業の終了後に提出するレポートを含め、授業内容の積み上げをポートフォリオで評価する。 ※全回終了後の総合レポートの内容（20%） 併せて「幼児と言葉」から続けて使用するファイルを提出することで、その内容（資料のファイリング，メモの有無等）に基づいて5点まで加点します。
③実技試験（%）	
④面接試験（%）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案は第4回授業後に提出されたものを個別に添削指導するとともに，第8回において評価および作成ポイントについてコメントする。</li> <li>・模擬保育については第7回の実施後にコメントをする。</li> </ul>	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-34

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育内容 (表現)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 増原 真緒・加藤 友彦・長島 佳奈	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	現場保育者経験を活かして保育内容「表現」における保育の実際と計画について伝えます。(増原)				
[授業の目的・ねらい] 「幼児と表現」で行った表現活動を踏まえ、子どもの表現に即した活動を計画し、指導案の作成から実践を通して幼児期の表現活動を支えるための知識・技能・表現力を身に付ける。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] ① 保育所・幼稚園・認定こども園における表現活動の事例を調査・発表する。 ② 子どもの表現活動について指導案を作成し、模擬保育を実践した後、振り返りから自己省察する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ① 造形・言語・身体・音楽等の表現を総合的に捉え、多様な表現の良さを活かして保育に活用することができる。 ② 保育所・幼稚園・認定こども園における表現活動を知り、活動を計画することができる。 ③ 指導案の作成から模擬保育の実践とその振り返りを通して、保育の表現活動における計画をする際の一助とすることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ・オリエンテーション【主：加藤】 ・保育における表現活動① (グループワーク/ICT) : 保育現場における表現活動の事例と小学校の教科等のつながりを、インターネットを活用して調査し、その結果をワークシートにまとめる。					
2) ・保育における表現活動② (グループワーク/ICT) 【主：加藤】 : 調査した内容を発表する。各グループの発表から、保育現場における表現活動の事例と小学校の教科等のつながりをワークシートにまとめる。					
3) 保育の計画・指導案の作成① (グループワーク) 【主：増原】 表現活動についてグループごとにオリジナル要素の工夫点を検討し、子どもの発達や興味・関心に応じた指導案を作成する。					
4) 指導案の作成② (グループワーク) 【主：増原】 作成した指導案の内容を教員による添削指導の内容に基づいて再考・修正する。 模擬保育に向けての教材研究を行う。			第 3 回で作成に取り組んだ指導案は指定された期日までに提出すること。(0.5~1 時間程度)		
5) 教材研究および模擬保育の準備 (グループワーク) 【主：増原】 指導案の内容に即して、大きさや素材など教材の研究をすることで教材観を高める。模擬保育に必要な用具・材料、楽器等を準備する。模擬保育にむけて事前準備および流れの確認やリハーサルをする。					
6) 模擬保育① (グループワーク/ICT) 【増原, 加藤, 長島】 グループごとに模擬保育を行う。			模擬保育の実施に向け、グループ内で各自分担して事前準備に取り組む。(0.5~2 時間程度)		
7) 模擬保育② (グループワーク/ICT) 【増原, 加藤, 長島】 グループごとに模擬保育を行う。 個別に模擬保育の振り返りおよび教員による総評					
8) まとめ【主：増原】 グループごとに自己評価を行い、模擬保育の振り返りをする。 授業全体の振り返り			※第 8 回授業で活用できるよう第 6~7 回の模擬保育についての振り返りシートを完成させる。(0.5 時間)		
[使用テキスト] ・文部科学省、『幼稚園教育要領解説』, 2018, フレーベル社 ・上野奈初美、『表現指導法 感性を育て、表現の世界を拓く』, 2020, 萌文書林 ・実習運営員会、『実習ガイドブック』2026, 大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 (松江キャンパス)					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					

①到達度の確認（60％）	第1～2回:表現活動調査の提出および内容（30％），第3～4回:指導案の提出および内容と修正（20％），第6～7回:模擬保育の気づきの提出および内容（5％），第8回:模擬保育振り返りの提出及び内容（5％）を総合的に評価します。
②実技・作品発表（20％）	第6～7回:模擬保育の保育者役および子ども役について評価します。
【定期試験】	
①筆記試験（　％）	
②レポート（20％）	幼児期における表現活動の提案と保育中の留意点についてのレポートを課します。
③実技試験（　％）	
④面接試験（　％）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1～2回の表現活動後のワークシートにコメントを記述する。</li> <li>・指導案は第3回に提出されたものを添削する。</li> <li>・模擬保育の様子は第7回にコメントをする。</li> </ul>	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-35

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 教育課程論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 小山 優子	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 保育の実践上、必ず理解しておかなければならない、保育の全体計画である教育課程の編成意義とその内容を知り、それに基づいて指導計画におおしていく視点を身につける。指導計画については、年間計画・期間計画・月案などの長期的な指導計画や、週案・日案などの短期的な指導計画などの種類を理解した上で、保育実習・教育実習において学生自身が立案する部分指導案や日案の書き方を知り、自分なりに書いてみるができることが授業のねらいである。また、計画、実践、評価の過程を通して、カリキュラム・マネジメントの方法を理解することを目的とする。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 保育所・幼稚園・認定こども園における教育課程や全体的な計画、指導計画について理解し、計画と評価について学ぶ。保育のカリキュラムの基本となる教育課程と指導計画の関係性を理解した上で指導計画の立案の意義や書き方について学ぶ。特に、指導計画については、短期的な部分指導案や日案、週案、月案についての書き方やその意義を具体的に理解し、指導計画作成の技能も身につける。また、指導計画の立案と記録の取り方、子どもの評価や保育者自身の自己評価の方法について学び、保育実践の質向上のプロセスを学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] (1) 教育課程の意義及び編成方法に関する理解を深め、幼稚園教育要領・保育所保育指針の位置づけや変遷、特徴を説明できる。 (2) 幼稚園・保育所における教育課程・全体的な計画の具体的展開を知り、授業開発や保育の展開を想定した指導計画の作成の視点を身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 教育課程・全体的な計画とは、教育課程編成の意義					
2) 教育目的・教育目標・教育方法と教育課程編成					
3) 幼稚園・保育所・認定こども園における教育課程・全体的な計画の編成方法					
4) 指導計画の作成の意義、指導計画の作成方法					
5) 幼稚園・保育所における長期的な指導計画 (月案・期間計画・年間計画)					
6) 幼稚園・保育所における短期的な指導計画 (部分指導案・日案・週案)					
7) 実習日誌・保育日誌・実践記録の書き方、保育記録の運用					
8) 教育課程・指導計画の評価とカリキュラム・マネジメント			(事後学習)1~8回の授業中に視聴したDVDについて、ワークシートの「まとめ」に自分の感想や意見を記述する(約30分)。		
[使用テキスト] 北野幸子・小山(小野)優子『乳幼児カリキュラム論』建帛社2010年 『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』					
[参考文献] 参考文献などは授業の中で適宜提示するとともに、必要に応じてプリントなどを配布する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( % )					
②実技・作品発表 ( % )					
【定期試験】					
①筆記試験 ( 70 % )		筆記による試験を行う。			
②レポート ( 30 % )		授業終了後に期日をもうけ、指定された場所へレポートを提出する。			
③実技試験 ( % )					
④面接試験 ( % )					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-36

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 特別支援教育論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 原 広治・舟越 美幸	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		園や学校、教育行政経験を活かし、現場の視点を大切に講義する。			
[授業の目的・ねらい] 多様な教育的ニーズをもつ子ども理解と指導・支援の実際について総論的に理解し、基礎的内容が説明できる。また、保護者や関係諸機関との連携の重要性がわかり、そのための実践が提案できる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 障害だけでなく、特別な教育的ニーズのある子どもに対する尊厳を重視したかかわりや指導・支援の在り方を概観する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 特別な教育的ニーズやインクルーシブ教育について解説できるとともに、子どもや保護者にかかわる際の配慮事項(重要事項)を、具体的な例を示しながら説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 障害のある子どもの保育の歴史の変遷と障害児施策			障害や障害のある人に関する新聞・雑誌記事の要約と、それに対する意見・感想を 300～400 字程度にまとめておくこと。(1時間)		
2) 発達と障害の捉え直しと支援の視点					
3) 障害のある子どもへのかかわり					
4) 就学支援と学校への接続					
5) 障害のある子どもへのかかわりの実際① *ゲストスピーカー					
6) 障害のある子どもへのかかわりの実際② *ゲストスピーカー					
7) 一人ひとりに応じた保育計画					
8) 職員間の協働・同僚性と他機関との連携					
[使用テキスト] 『障害のある子どもとともに歩んだ 20 年』 (ミネルヴァ書房)					
[参考文献] 『ASD を共に生きる : 共事者として子どもの〈生きる様〉をエピソードで描く』 (北大路書房) 『シリーズ発達と障害を考える本』 (ミネルヴァ書房) 『最新保育講座 15 「障害児保育」 (第 2 版)』 (ミネルヴァ書房)					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( % )					
②実技・作品発表 ( % )					
【定期試験】					
①筆記試験 ( % )					
②レポート ( 100% )		全授業の終了後に提出するレポートを含め、ポートフォリオで評価する。			
③実技試験 ( % )					
④面接試験 ( % )					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] レポート課題の解答ポイントを、試験期間終了後に示す。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-41

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育の計画と評価		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 増原 真緒・舟越 美幸 (オムニバス)	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		保育者としての実践経験を基に、保育における計画と評価のあり方について伝えます。			
[授業の目的・ねらい] ・保育内容の質の向上に資する保育の計画及び評価の方法について説明できる。 ・全体的な計画と長期計画・短期計画についてその意義と方法を理解し、実践できる。 ・子ども理解と保育の計画のつながりについて理解し、実践できる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] ・保育所・認定こども園における保育の全体的な計画や子ども理解とのつながりを理解し、計画から評価までを含む一連の保育計画と改善方法を学ぶ。 ・年間計画・月案・週案・日案・部分指導案について理解し、指導案作成の技能について学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 保育の計画や評価と保育の全体的な計画とのつながりについて理解を深め、その意義や特徴を説明できるとともに、指導案作成や保育の質の向上に必要な視点を説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 指導計画作成に当たっての基本的な考え方 (舟越)			保育所保育指針解説 (フレーベル社) の関連する箇所を読んでおくこと。(1時間)		
2) 保育所保育指針解説「保育の計画及び評価」 (舟越)					
3) 長期計画の作成と実際 (舟越) ・長期計画について学び、構成されている項目の意義について学ぶ。			第4回で作成を始めた指導案を、教員の示す期日までに完成させて提出すること。(1時間)		
4) 短期計画と評価：保育の計画から実践の実体験 (増原) ・主な活動の時間における指導案部分的な保育について、教員による指導案の提示から作成方法を学ぶ ・指導案の作成①：グループワーク					
5) 保育指導案の作成②：グループワーク (増原) 指導案の修正および実践に向けたグループでの打ち合わせ					
6) 保育指導案の実践：グループワーク (増原・舟越)					
7) 保育の質の向上に向けた改善 (ディスカッション) (増原) 指導案の改善、ねらい及び内容の検討					
8) 保育の計画と評価における総合的な学びのまとめ (舟越)					
[使用テキスト] 実習運営委員会、『実習ガイドブック』2024, 大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 厚生労働省、『保育所保育指針解説』2018, フレーベル社					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認 (55%)	第3回：長期計画の作成 (10%) 第6回短期計画の作成 (10%) , 第4-5回：指導案の提出と内容 (20%) , 第6-7回：ワークシートの提出と内容 (15%)				
② 実技・作品発表 (15%)	第6-7回：実践の内容 (15%)				
【定期試験】					
①筆記試験 (30%)	保育の計画と評価に関する試験を実施				
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] ・提出された課題について授業内で解説やコメントをします。					

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-37

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 子ども家庭支援の心理学		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		資格必修			
[授業の目的・ねらい] 子どもが最初に経験する家庭について、その構造や意義を子どもや家族の発達と関連づけて学習する。多様な家族形態の中で子どもの育ちや保護者の子育てを支えるために必要な心理学の基礎知識を身に付ける。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] この科目は、3セメスターの「子ども家庭支援論」や4セメスターの「子育て支援演習」の基礎科目としての位置づけである。家庭支援や子育て支援に必要な心理学の知識について講義する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題について説明できる。 2. 家庭や家族の意義や構造と個々の発達を関連づけて考えることができる。 3. 多様な家庭や家族を踏まえた子どもや家庭への支援の在り方について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 生涯発達の考え方 目標：生涯発達の様々な理論に関する基礎的知識を身に付ける。			各回で示すキーワードについて、調べ直し、ノートに加筆したり、復習したりする。(各回1時間程度)		
2) フロイトやピアジェの理論からみる乳幼児期の発達 目標：乳幼児期の発達に関する知識を身に付ける。					
3) 愛着の発達と愛着の連続性 目標：愛着の発達に関する知識を身に付ける。					
4) フロイトやピアジェの理論、ライフサイクル論からみる児童期の発達 目標：児童期の発達に関する知識を身に付ける。					
5) ライフサイクル論からみる思春期・青年期の発達 目標：思春期・青年期の発達に関する知識を身に付ける。					
6) ライフサイクル論からみる成人期・老年期の発達 目標：成人期・老年期の発達に関する知識を身に付ける。					
7) 学習の振り返りと小テスト					
8) 家族システムと家庭支援 目標：家庭支援の範囲と意義について理解する。					
9) 子どもの成長と家族の変化 目標：子どもの発達を追いながら変化する家族のありようを理解する。					
10) 親の精神的健康とリスク要因 目標：親の精神衛生に関する基礎を理解する。					
11) 親としての養育スタイルの形成要因 目標：養育スタイルの形成要因について理解する。					
12) 障がいのある子どもの理解と対応 目標：これまでの学習からテーマについて考察する。					
13) 児童虐待と家庭支援 目標：これまでの学習からテーマについて考察する。					
14) 子育て環境を取り巻く環境の変化 (グループワーク) 目標：これまでの学習からテーマについて考察する。					
15) 学習の振り返りと発表					
[使用テキスト] 本郷一夫・神谷哲司(編), 『シートブック 子ども家庭支援の心理学』, 2019, 建帛社.					
[参考文献] 繁多進(編), 『子育て支援に生きる心理学 実践のための基礎知識』, 2010, 新曜社. 孫詩彥, 『家事育児の分担にみる夫と妻の権力関係』, 2022, 明石書店.					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					

①到達度の確認 ( 20%)	第 7 回に実施する小テストによって到達目標 1 の基礎的部分を評価する。
②実技・作品発表 ( 30%)	第 15 回に実施するグループ発表によって到達目標 3 を評価する
<b>【定期試験】</b>	
①筆記試験 ( 50%)	論述を含む課題によって到達目標 1・2 を評価する。
②レポート ( %)	
③実技試験 ( %)	
④面接試験 ( %)	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 筆記試験の解答のポイントを掲示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-42

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 子どもの保健		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 鵜野 安希子	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		小児科病棟勤務経験のある教員が、その経験を活かした具体的、実践的な講義を行う。			
[授業の目的・ねらい] 子どもの身体発育、生理機能、運動機能、精神機能の特性を学び、子どもの健康と疾病に対する理解を深める。また、子どもの健康増進に必要な知識を習得し、保育者として適切な対応と支援ができる基礎力を養うことを目的とする。これにより、現代社会における子どもの健康課題に対応できる保育者の育成を目指す。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] 本授業では、子どもの心身の健康増進を図るための保健活動の意義や内容を学ぶ。子どもの発育・発達の特徴とその健康状態の把握について理解を深め、疾病予防や早期発見の方法、さらに多職種との連携による対処方法についても学習する。子ども特有の生理機能や運動機能を理解するとともに、現代社会における子どもの健康課題を考察し、母子保健・地域保健活動における保育士の役割について具体的に解説する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解することができる。					
2. 子どもの身体発育、生理機能、運動機能の発達について理解することができる。					
3. 子どもの健康状態の把握と、疾病の特徴や予防、適切な対応について理解し、具体的に考えられるようになる。					
4. 保健活動における地域連携や多職種間の協働の重要性を理解し、それを保育現場に応用できる基礎的な知識を身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 保健活動の意義 (母子保健の統計より) 子どもの健康と保健活動			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
2) 子どもの出生と母子保健の意義・子どもに関する統計の理解			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
3) 子どもの身体・発達と保健			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
4) 子どもの運動発達			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
5) 子どもの生理機能の発達			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
6) 子どもの生活習慣②			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
7) 中間試験 こどもの虐待防止			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
8) 子どもの健康状態の観察			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
9) 子どもの主な感染症①			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
10) 子どもの主な感染症②			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
11) 感染症の予防および適切な対応			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
12) 新生児の病気、先天性疾患			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
13) アレルギー疾患の特徴			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
14) アレルギー疾患の適切な対応			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
15) 保護者との情報共有と家族の支援			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
[使用テキスト]					
「授業で現場で役に立つ! 子どもの保健テキスト 改訂第3版」 小林 美由紀編 診断と治療社					
[参考文献]					
講義に必要な資料を授業の中で紹介する					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( % )					
②実技・作品発表 ( % )					
【定期試験】					
①筆記試験 ( 80% )		中間試験 40 点 + 最終定期試験 40 点			
②レポート ( 20% )					
③実技試験 ( % )					
④面接試験 ( % )					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 授業後に授業アンケートを実施し、質問があれば次の講義でフィードバックします。					

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-44

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 子どもの食と栄養		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 永見 葉子	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		小児病棟有床の病院勤務での栄養管理を具体的な演習やグループワークを通して学習に活かす			
[授業の目的・ねらい] 専門的知識に基づき子どもの健康・発育・食を営む力を培い、子どもに有益な食育を行うことができるようになる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 子どものステージ毎の栄養の特性や問題点を学習し、保育の実践的活動に繋げられるよう演習やグループワーク、座学を通して学習。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
① 栄養の基本及びバランス食を理解し、子どもに分かりやすい説明ができる。					
② 食物アレルギー、感染症のリスクを理解し、危機管理対策案を挙げることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 子どもの健康と食生活の意義と問題点 (座学)					
2) 栄養の基本、代謝を理解し子どもへ分かりやすい表現を学習					
3) 栄養素の種類と働きを理解し子どもへ分かりやすい表現を学習			授業内容を踏まえ、模造紙に各班でまとめ (1時間)		
4) 5大栄養素の種類と働きを模造紙にまとめて発表 (グループワーク)			同上		
5) 日本人の食生活の目標 献立作成・調理の基本 (座学)					
6) 食事バランスガイド及びバランス食の理解を深める (座学)			自身の3食の記録をまとめ (1時間)		
7) 妊娠期・授乳期・乳児期の意義と食生活 母乳の利点・欠点 (座学)					
8) 離乳期の意義と食生活 (座学)					
9) 乳幼児期・学童期・思春期の心身の発達と食生活 (座学)					
10) 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 (座学)					
11) 施設における衛生管理・食中毒のリスク管理 保健日より作成					
12) 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギー (座学)					
13) 食育計画 P D C A サイクル食育計画書作成 (座学)					
14) 地域や家庭と連携した食育の展開の理解 実践 (グループワーク)			食育テーマに基づき媒体作りを各班でまとめ (1時間)		
15) 食育テーマに基づいた発表 (グループワーク) 総まとめ					
[使用テキスト] 子どもの食と栄養					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( % )					
②実技・作品発表 ( % )					
【定期試験】					
①筆記試験 ( 100%)					
②レポート ( % )					
③実技試験 ( % )					
④面接試験 ( % )					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 筆記試験について正答を試験期間終了後開示					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-45

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 子ども家庭福祉		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 藤原 映久・堅田 弘行 (オムニバス)	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
資格必修	資格必修				
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	過去に 15 年間児童相談所で勤務、現在は小児科でカウンセリングに従事 (藤原) 児童自立支援施設児童指導員としての勤務経験を活かし、社会的養護を中心に講義する。(堅田)				
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
子どもと家庭の福祉を考える上で必要となる基本的知識を習得するとともに、子どもと家庭に関わる各種の課題への支援のあり方を理解し、子どもの立場に立った支援を考えることができるようになる。					1
[授業全体の内容の概要]					
子どもの権利に代表される子ども家庭福祉の理念や歴史、関連する法体系・機関・施設などの基礎的知識に加え、いじめ、子どもの貧困、非行、障がい、親権、子ども虐待など、我が国の子ども家庭福祉が直面しているトピックについて幅広く学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
1) 子どもと家庭の福祉を考える上で必要となる最も基礎的知識 (理念、歴史等) について理解している。 2) 子ども家庭福祉の実際の実施体制について、法律や専門機関等と関連づけて理解している。 3) 子どもと家庭に関する課題に関する支援のあり方を理解した上で、子どもの立場に立った支援とは何かを考え、その内容を説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 現代の子どもと家庭をめぐる状況 (藤原) 少子化、児童虐待、非行、不登校など現在の子どもと家庭が抱える様々な課題を概観し、状況を理解する。			●配布資料末尾の確認テストを行い、自らの学びを確認する。 ●配布資料末尾の「参考・引用文献」の中から、関心の高い資料を閲覧し、学びを深める。 ●配布資料内に QR コードがある場合、QR コードから資料を閲覧し、学びを深める。 ●毎回の授業の冒頭で配布する新聞記事などを読み、子ども家庭福祉のトピックや動向を確認する。 ※各回における準備学習に必要な時間数は 60 分程度である。		
2) 子ども家庭福祉の理念と概念 (藤原) 児童家庭福祉から子ども家庭福祉への考え方の変化など、子ども家庭福祉を支える基本的な考え方を学ぶ。					
3) 子ども家庭福祉の歴史的変遷 (藤原) 近代以降を中心として子ども家庭福祉の歴史を概観し、その変遷を理解する。					
4) 子どもの人権擁護と子ども家庭福祉 (藤原) 子どもの権利とその制限及び人権感覚について理解する。					
5) 子ども家庭福祉の制度と法体系 (藤原) 人権とは何か、子どもの権利とは何かについて基本的な考え方を学ぶ。					
6) 少子化と子育て支援 (藤原) 少子化の現状と少子化対策の役割を担う子育て支援の制度について学ぶ。					
7) 親権について (藤原) 誤解されることも多い親権について、正しい理解を身につける。					
8) 子ども家庭福祉の実施体系 (堅田)					
9) 子どもの健全育成 (堅田)					
10) ひとり親家庭への支援 (堅田)					
11) 子ども虐待と DV 問題について (堅田) ※小テスト					
12) 社会的養護のしくみ (堅田)					
13) 障がいのある子どもと家庭への支援 (堅田)					
14) 非行への支援/心理治療が必要な子どもへの支援 (堅田)					
15) 子ども家庭福祉の課題と展望 (堅田) ※小テスト					
[使用テキスト]					
・直島正樹・河野清志 (2025) 『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』第 2 版、萌文書林 ・配布資料あり					
[参考文献]					
・配布資料における各講義回部分の末尾に記載するとともに、資料内に QR コードを掲載する (藤原)。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認 ( 40%)	授業の冒頭に前回授業に関する小テストを実施する (藤原 : 20%)。				

	第 11 回、15 回にそれまでの授業に関する小テストを実施する（堅田：20%）。
②実技・作品発表（ %）	
【定期試験】	
① 筆記試験（60%）	配布資料末尾の確認テスト及び授業冒頭で行う小テストの内容を中心に、基礎的な知識を問う（藤原）。（30%） 小テストや授業内で問題提起をした内容を中心に基礎的な知識を問う（堅田）。（30%）
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
・小テスト及び筆記試験について、試験終了後に正答を開示する。	
[備考]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず、配布資料を持参すること。</li> <li>・小テストの実施は第 2 回～7 回とし、初回は感想の提出を求める。なお、これらの提出をもって出席を確定させる（藤原）。</li> <li>・小テストは第 11 回、第 15 回の授業が終了した時にそれぞれ第 8 回～第 11 回の内容、第 12 回～第 15 回の内容を範囲として実施する（堅田）。</li> </ul>	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-47

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 社会福祉論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 安高 真弓	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	2単位	配当	1 Semester 資格必修
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		社会福祉の数々の経験もふまえ、保育士に必要な社会福祉の知識・方法等について講義する。			
[授業の目的・ねらい] 現代における社会福祉の意義と社会福祉における子ども家庭福祉の視点について理解する。また、社会福祉の制度、実施体系、相談援助、利用者保護の仕組みと社会福祉の動向及び課題について理解する。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 社会福祉の理念・概念、歴史など、社会福祉の基礎的な学習から始まり、社会福祉の制度や実施体系、社会保障及び関連制度について学ぶ。また、社会福祉における相談援助の対象や方法、技術について学ぶ。さらに、福祉サービスの提供にあたって規定されている利用者保護に関わる制度の背景や法的根拠等を学ぶ。加えて、今後の社会福祉の動向と課題を考察する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭福祉の視点について説明できるようになる。 ・対象、分野別の社会福祉制度や実施体制等、また相談援助、利用者保護の仕組みについて説明できるようになる。 ・社会福祉の動向と課題について理解し、考察できるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション (トリセツ作成) 社会福祉とは何か?			*各回授業範囲のノートまとめ (各1時間)		
2) 保育と社会福祉			*日頃から、社会福祉に関連するテレビや新聞などのニュースに関心をはらい、情報を集めておく。		
3) 社会福祉の道すじ					
4) 社会福祉の意味と考え方・法体系					
5) 社会福祉の行実施体制と財政					
6) 暮らしを支える社会保障制度					
7) 子どもと家族の福祉					
8) 社会福祉の専門職と倫理					
9) 保育士とソーシャルワーク①					
10) 保育士とソーシャルワーク②					
11) 利用者の権利擁護と福祉サービスの質					
12) 障がいのある人の福祉					
13) 障がいのある人の福祉サービスと施策					
14) 社会福祉の動向と課題①					
15) 社会福祉の動向と課題②					
[使用テキスト] 『10訂 保育士をめざす人の社会福祉』みらい 2024					
[参考文献] 必要があれば補足的な資料を適宜配布する					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (40%)		必要に応じてレポート課題を課す。			
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (60%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 提出された課題についてコメントする。					
[備考] 配布資料をつづるファイルを各自用意すること。講義のたびにリアクションペーパーの提出を課す。 講義内容、レポートなどは、予告なく変更することがある。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-48

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 障がい者福祉論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 平岡昇、寺本年生、遠藤志三夫、池田史子、田中孝拓、野田知宏、堀江俊之 (オムニバス)	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	2 Semester
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		知的障がい児者施設での実務経験を踏まえて障がい児者支援の実際について講義する。			
[授業の目的・ねらい] 障がい児者が利用する福祉サービスの現状を知る。それを踏まえて障がい児者への支援について職員がどのようにかわり、対応しているかを考える。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 障がい福祉サービスを利用する障がい児者の日常生活について説明する。障がい児者の日常生活や支援の実際を知ることによって、それぞれの行動への理解を深め、生活環境の整備や就労への支援方法を考える。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 施設や在宅で生活をする障がい児者の行動に理解を深めて適切なかわり方が実践できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 障がい児者のライフステージに沿った福祉サービスの概要とその利用状況を理解する。【平岡・野田】					
2) 入所施設での支援【寺本】 ～ 障がい者支援施設における日常生活の支援と日中活動への取り組み			施設案内を読み内容を確認しておく (0.5時間)		
3) 入所施設での支援【寺本】 ～ 障がい児入所施設における生活支援の実践			施設案内を読み内容を確認しておく (0.5時間)		
4) 在宅サービスでの支援【遠藤】 ～ 放課後等デイサービスでの実践			施設案内を読み内容を確認しておく (0.5時間)		
5) 在宅での生活と地域との連携①【池田】 ～ 就労の場における実践 (就労継続支援)			施設案内を読み内容を確認しておく (0.5時間)		
6) 在宅での生活と地域との連携②【田中】 ～ 生活支援の場における実践 (グループホーム)			施設案内を読み内容を確認しておく (0.5時間)		
7) 施設実習① 入所および在宅サービスでの生活の様子を知り、支援者がどのようにかわりをもっているか考える【全員】			1)～6)における授業内容を振り返る(1時間)		
8) 施設実習② 支援の現場から感じられたことをもとに意見交換をして支援方法への理解を深める【全員】					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] 施設案内 (山陰家庭学院障がい福祉事業)					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認 (60%)	授業態度、第1回～第6回の講義の終了時に課す提出課題の内容から評価する。				
② 実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
② 筆記試験 (%)					
③ レポート (40%)	第1回～第8回の講義内容を踏まえた課題を設定し、その内容によって評価する。				
④ 実技試験 (%)					
⑤ 面接試験 (%)					
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] レポートの解答のポイントを掲示する。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-49

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 障がい児保育		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 舟越 美幸	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	保育者として実践経験をもとに障がい児の育ちと支援方法についてお伝えします。(舟越)				
[授業の目的・ねらい] ・障がいをもつ子どもと共に生きる保育の理念や歴史の変遷について理解する。 ・障がいをもつ子どもについて理解し、発達を保障する周囲の環境づくりや保育の計画について理解する。 ・障がいをもつ子どもを養育する保護者支援や地域の関係機関との連携について理解する。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] ・障がいに応じた教育・保育について学ぶ。 ・障がい児と共に生活する保育の理念や関わりについて事例を通して理解を深める。 ・障がい児・保護者・関係機関との連携に関わり、共に支え合う保育について学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・インクルーシブ保育や多様性を受容する社会のあり方について理解し、説明ができる。 ・個々の発達特性や思いや願いに応じた障がい児との関わりや支援方法、保護者や関係機関との連携のあり方を理解し、親子を支える保育環境づくりについて説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 障がい児保育の概要・障がい児保育の歴史の変遷 糸賀一雄 監修「夜明け前の子どもたち」DVD 視聴					
2) 子ども主体の環境づくり・個体論的な障がい観と関係論的な障がい観 重要な他者との信頼関係から始まる関係性の発達・愛着・二次障がい					
3) 発達の見方と気になる発達の評価 発達(0歳～6歳)と言葉・概念形成・情動の発達					
4) 知的障害児の理解と保育					
5) 肢体不自由児・重症心身障害児・医療的ケア児の理解と保育					
6) 聴覚・視覚障害児の理解と保育・言語障害の理解と保育					
7) 発達障害児の理解と援助					
8) 個々の発達を促す生活や遊びの環境づくり① ・子どもの世界を拓げる保育者の関わり・他者との関わり合いと育ち合い ・職員間の協力関係・チーム保育について理解する。					
9) 個々の発達を促す生活や遊びの環境づくり ・身体感覚の偏りと不器用さ・自己有能感 ・感覚統合や認知発達と遊びの関連性について学ぶ。					
10) 個々の発達を促す生活や遊びの環境づくり③ グループワーク ・子どもの発達を保障する遊びや玩具の製作			授業内に玩具づくりが終わらない場合は、期限までに提出すること。(1h)		
11) 個々の発達を促す生活や遊びの環境づくり④ グループワーク ・感覚を統合する運動遊びの考案					
12) 家庭及び関係機関との連携① ゲストスピーカー ・保護者と信頼関係を築き、子育ての両輪となる支援のあり方について学ぶ。 ・家族や兄弟児を支える必要性について学ぶ。 ・地域全体で親子を支える療育活動について考える。					
13) 家庭及び関係機関との連携② フィールドワーク 安来市中心身障害児地域療育活動総合援助事業「たんぼぼの会」に参加し、障がいのある親子を支える地域療育のあり方について理解する。			授業後にレポートを作成し、提出すること。(1h)		
14) 指導計画・支援計画 ・障がいがある子どもの早期発見と支援の必要性について学ぶ。 ・生育歴・発達・興味や関心・保護者等の思いや願い等から計画立案する。 ・障がいのある子どもの就学に向けた支援について考える。					

15) 障がいがある子どもの就学 フィールドワーク ・特別支援学校へ実際に出向き、講話を聴いたり実際に子ども達と関わったりすることで、就学後の学校生活についてイメージを持つ。	授業後にレポートを作成し、提出すること。(1h)
[使用テキスト] ・実践に生かす障害児保育・特別支援教育 前田泰弘(編著)・立元真・中井靖・小笠原明子 萌文書林	
[参考文献] ・「最新保育講座15・障害児保育」鯨岡峻, ミネルヴァ書房。 ・「障害児保育30年～子どもたちと歩んだ安来市公立保育所の軌跡～」, ミネルヴァ書房。 ・「どの子にもあ～楽しかった!の毎日を」赤木和重・岡村由紀子・金子明子・馬飼野陽美, ひとなる書房。 ・「『気になる子』が変わるとき-困難をかかえる子どもの発達と保育」木下孝司, かもがわ出版	
[評価の実施方法と基準]	
【平常試験】	
① 到達度の確認 (40%)	第1・3回のワークシート(10%), 第12回ゲストスピーカー講話レポート(10%) 第14回(10%), 第15回個別の支援計画(10%)
② 実技・作品発表 (15%)	第10回:玩具製作の計画・玩具作品(15%)
【定期試験】	
① 筆記試験 (45%)	
② レポート (%)	
③ 実技試験 (%)	
④ 面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ・提出した課題について授業内で解説したり、コメントを返したりする。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-50

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 社会的養護 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		元児童自立支援施設児童指導員の経験を活かし、施設養護の実態を捉えた講義をします。			
[授業の目的・ねらい] 社会的養護の原理や歴史を踏まえ、現代の社会的養護の現状や背景について、専門的知識に基づいた自分なりの考えをもつことができる。また、子どもの最善の利益を尊重する態度を身に付けることができる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] テキストをもとに講義をおこなう。授業内で計3回小テストをおこない、学習内容の定着を図る。 第1回小テストの範囲：社会的養護の基本理念と原理、社会的養護の歴史 第2回小テストの範囲：社会的養護の実際					
[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] 1. 社会的養護の歴史の変遷と現代の社会的養護の実態を関連づけることができる。 2. 社会的養護の制度や実施体系について説明できる。 3. 現代の社会的養護の現状と課題を理解し、未来の社会的養護を予測できる。 4. 社会的養護において保育者に求められる専門技術について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 社会的養護の範囲			「社会的養護」について調べる (1 時間)		
2) 社会的養護の基本理念と原理/第1回小テスト			テキストの該当ページを一読する (30 分)		
3) 社会的養護の歴史 (古代～第一次世界大戦前)			テキストの該当ページを一読する (30 分)		
4) 社会的養護の歴史 (第一次世界大戦～現代)			テキストの該当ページを一読する (30 分)		
5) 子どもの権利擁護/第2回小テスト			テキストの該当ページを一読する (30 分)		
6) 社会的養護の制度と法体系/仕組みと実施体系			テキストの該当ページを一読する (30 分)		
7) 社会的養護の実施① (乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設)			テキストの該当ページを一読する (30 分)		
8) 社会的養護の実際② (児童心理治療施設、児童自立支援施設など)			テキストの該当ページを一読する (30 分)		
9) 社会的養護の実際③ (障がい児入所施設、障がい児通所施設)			テキストの該当ページを一読する (30 分)		
10) 社会的養護の実際④ (里親、ファミリーホーム)			テキストの該当ページを一読する (30 分)		
11) 第3回小テスト/社会的養護にかかわる専門機関			テキストの該当ページを一読する (30 分)		
12) 社会的養護にかかわる専門技術① (専門職の資質)			テキストの該当ページを一読する (30 分)		
13) 社会的養護にかかわる専門技術② (学習環境・学校との連携)			テキストの該当ページを一読する (30 分)		
14) 社会的養護にかかわる専門技術③ (対人関係・社会生活)			テキストの該当ページを一読する (30 分)		
15) 社会的養護におけるソーシャルワーク/第4回小テスト			テキストの該当ページを一読する (30 分)		
[使用テキスト] 喜多一憲 (編), 『みらい×子供の福祉シリーズ第2版 社会的養護 I』, 2024, みらい。					
[参考文献] 田中康雄 (編), 『児童生活臨床と社会的養護』, 2012, 金剛出版。 F.P. バイスティック, 尾崎新ら (訳), 『ケースワークの原則 援助関係を形成する技法』, 2008, 誠信書房。 上田敏, 『ICF の理解と活用』, 2011, きょうされん。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( % )					
②実技・作品発表 ( % )					
【定期試験】					
①筆記試験 ( 100% )		授業修了時の達成課題に示されている4項目について論述問題で評価します。			
②レポート ( % )					
③実技試験 ( % )					
④面接試験 ( % )					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]					

- ・小テストの解答は授業内に示します。
- ・筆記試験終了後に評価のポイントを提示します。

[備考]

- ・google classroom に大学のアカウントを用いてログインできるようにしておいてください。
- ・スマートフォンは資料を確認する際に使用しますので、持ち込み可とします。
- ・資料の閲覧以外でのスマートフォンの使用、私語や居眠り等が見られた場合は退出を求めます。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-51

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 乳児保育 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 舟越 美幸	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	保育者およびタッチケア指導者として現場における実践経験をもとに乳児の育ちと必要な援助について伝えます。				
[授業の目的・ねらい] ・乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割等について理解し、現状と課題を説明できる。 ・乳児の生活や遊び・発達過程を理解し、保育者の心構えについて説明できる。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] 乳児保育の現状と役割を理解し、実践的に関わるための知識や支援方法・配慮を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・乳児保育の現状や役割を理解し、課題について説明できる。 ・乳児の生活や遊びを理解し、その特徴や発達過程、興味や関心について説明できる。 ・乳児保育における保育者の援助のあり方について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) オリエンテーション: 乳児保育の理念と役割・歴史の変遷と理念・役割					
2) 乳児保育の現状と課題 乳児が育つ家庭や施設等での現状と課題について学ぶ。 藤永保「人間発達と初期環境」のCDを聴き、初期環境・愛着形成の重要性を学ぶ。				教科書の該当箇所を読む (15分程度)	
3) 乳児保育の目指すもの 保育所保育指針: 「乳児保育に関わるねらい及び内容」と「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」 乳児保育の基本と環境～「重要な他者」養護の働きと教育の働き・基本的信頼～				保育所保育指針に目を通しておく。(15分程度)	
4) 乳児の発達と保育 (0歳児前半)				教科書の該当箇所を読む (15分程度)	
5) 乳児の発達と保育 (0歳児後半から1歳)				教科書の該当箇所を読む (15分程度)	
6) 乳児の発達と保育 (1歳から2歳児)				教科書の該当箇所を読む (15分程度)	
7) 自我の発達とイヤイヤ期: 第一次反抗期と保育者のかかわり				教科書の該当箇所を読む (15分程度)	
8) 乳児保育の遊び① 感触遊び・見立て遊びとオノマトペ ・ゼラチンゼリーと片栗粉を使った感触遊び・牛乳パックを使った見立て遊び ・興味や関心に沿った環境の再構成(草花を使った遊び)				乳児の生活や遊びに合わせた感触遊び、発達に合わせた手遊びについて調べ、提出してください。	
9) 乳児保育の遊び② 手遊び				(1時間程度)	
10) 乳児保育の遊び② 手遊び(グループワーク)					
11) 乳児保育と言葉・コミュニケーション 「言葉のビルディング」					
12) 中川信子「言葉を育てる 語りかけ育児」のDVDを視聴し、言葉の獲得と保育者の語りかけについて学ぶ。					
13) 乳児保育と子ども・親としての発達と地域資源との連携					
14) 保育の計画と実践① *フィールドワークに向け準備を行う。					
15) 保育の計画と実践② *外部機関との連携・フィールドワーク					
[使用テキスト] ・『乳児の保育新時代』乳児保育研究会 ひとなる書房					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認 (30%)	第2回・第7回・第8回・第11回(各5%)・第15回振り返りシート提出(10%)				
② 実技・作品発表 (20%)	第9回・10回で行う手遊びの資料作成・振り返りのワークシート(各20%)				

【定期試験】	
① 筆記試験 ( 50%)	
② レポート ( %)	
③ 実技試験 ( %)	
④ 面接試験 ( %)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
・提出された課題について授業内で解説したり、コメントしたりする。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-53

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 乳児保育Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 舟越 美幸・増原 真緒 (オムニバス)	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	保育者として勤務した経験から乳児期に必要な保育士の専門性について講義する。(舟越・増原)				
[授業の目的・ねらい] *乳児期の発達を理解し、人間愛に根ざした保育の援助者としてのあり方を学ぶ。 *乳児保育・1歳以上から3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえ、子どもにとっての望ましい生活環境について理解すると共に基本的な関わり方の技能を習得する。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容概要] *乳児保育の諸要素を学び、資料をもとに演習、実技、討議の中で乳児保育の基本的なあり方を学ぶ。 *演習を通して乳児の抱き方や衣服の交換、身体の清潔保持、授乳の方法について体得する。 *乳児保育における安心・安全な環境および安心感へと繋がる関わりと保護者との連携について学ぶ。 *乳児保育における個別計画について知り、実際に作成の体験をする。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] *乳幼児が日常生活を過ごすために必要な養護の基本技術を身につけ、その方法について説明できる。 *乳児にとっての安全な環境および受容的・応答的関わりや保護者との連携について自らの考えを説明することができる。 *乳児保育における個別計画について理解し、作成にあたっての基本事項について説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 「乳児保育Ⅱ」ガイダンス・乳児の育ちを育む養護の技術Ⅰ (舟越) 乳児の抱き方、寝かせ方、おむつ交換、衣服の着脱			・多目的室で赤ちゃん人形を使って演習を行います。		
2) 乳児の育ちを育む養護の技術Ⅱ (舟越) 哺乳器具の取り扱い、調乳、授乳の方法			・全員エプロンを着用し、髪の毛の長い学生は、髪をまとめて参加してください。		
3) 乳児の育ちを育む養護の技術Ⅲ (舟越) 沐浴の方法、身体計測			・4回目は「到達度の確認を行います。第1～3回目の授業を復習し、受講してください(1時間)。		
4) 乳児の育ちを育む養護の技術Ⅳ (プレゼンテーション) (舟越) 乳児期に必要な関わり方について到達度の確認を行う。					
5) 乳児保育における配慮の実際 (増原) ・集団生活および環境の変化に応じた保育者の配慮について環境構成と手作りおもちゃ等の観点から考えるとともに、グループワークから学びを深める。(グループワーク)					
6) 日々の子どもの体験と学びにおける受容的・応答的関わりⅡ (増原) ・赤ちゃん絵本のビブリオラブを通してより多くの絵本に触れる。 ・乳児期に勧められるブックスタート絵本の読みあいを通して、乳児の発達特性および発達過程に応じた選書および読み方の工夫を知る。 ・絵本を介した関わりから子どもの安心感へと繋がる応答的関わりについて学ぶ。 <b>※発表する絵本を一冊、持参すること(図書館のものでよい)。</b>			・「赤ちゃん絵本」と呼ばれる絵本をリサーチし、事前に2～3冊は読んでおく。 →事前に配布するワークシートを用いて第7講でその中の一冊について発表してもらいます。		
7) 連絡帳とおたよりの重要性 (増原) ・連絡帳の意義と役割～連絡帳の模擬記述 ・おたよりの意義と役割～おたよりの記録方法を知る ・模擬的なおたよりの作成 ➢試験レポートとして提出となるため、早めに作成にあたっておくこと。					
8) 乳児保育における計画の実際 (増原) ・保育所保育指針で義務付けられる乳児保育における個別計画について知り、実際に作成する。 ・互いの気づきを共有し、集団の指導計画と個別の指導計画の関連性について学ぶ。(グループワーク)					
[使用テキスト] ① 『乳児の保育新時代』乳児保育研究会 ひとなる書房					

[参考文献]	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
① 到達度の確認 ( 50%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1～4回目振り返りシート (20%)</li> <li>・第5回：環境と配慮ワークシートの提出と内容 (10%) 【増原】</li> <li>・第6回：ビブリオラブに関するワークシートの提出と内容 (5%) 【増原】</li> <li>・第7回：連絡帳ワークシートの提出と内容 (5%) 【増原】</li> <li>・第8回：個別計画に関するワークシートの提出と内容 (10%) 【増原】</li> </ul>
② 実技・作品発表 ( 30%)	第4回目プレゼンテーション (30%)
【定期試験】	
② 筆記試験 ( %)	
③ レポート ( 20%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おたよりの提出【増原】</li> <li>(※各学生の取り組み課題は授業内にも事前に提示します。時間を要する作業のため、当該回の授業を終えたら早めに取り組みましょう。)</li> </ul>
③実技試験 ( %)	
④面接試験 ( %)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
・演習後に振り返りシートを記入したり、授業内で解説したりする。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-20-54

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 表現技術 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦・増原 真緒・長島 佳奈 (オムニバス)	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	1セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		元現場保育者経験を活かし、保育における表現技術について伝えます。(増原)			
[授業の目的・ねらい] 手袋人形の製作と発表を通して、保育における表現技術を習得することを目的とする。学習の成果は実習の機会に活用することを期待する。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 保育活動をする想定で2種類の手袋人形を製作する。アイテムを用いた練習を経て、発表する。発表後には振り返りをする。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①手袋人形と発表に必要な小物を製作することができる。 ②保育活動を想定して、手袋人形を用いた発表をすることができる。 ③製作活動と発表を振り返り、自己課題を明らかにし、課題解決を図ることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション: 授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 製作①: 手袋人形「ことりん」を製作する。【増原・加藤】			授業時間内に完成しなかった場合は課外で製作し、次回の発表までに完成させる。(1時間)		
2) 発表の準備①: 手袋人形「ことりん」を用いた表現の練習を行う。 発表①〈グループ〉: グループに分かれ発表をする。【増原・長島】			発表の練習をする。(1時間)		
3) 製作②: 提示された手袋人形の中から1つ選び製作する。【加藤】			予定通りに進まなかった場合は、課外で製作を進める。(1時間)		
4) 製作③: 手袋人形を製作する。【加藤】			予定通りに進まなかった場合は、課外で製作を進める。(1時間)		
5) 製作④: 手袋人形を完成させる。発表に必要な小物があれば加えて製作する。【加藤】			授業時間内に完成しなかった場合は課外で製作し、次回の発表までに完成させる。(1時間)		
6) 発表の準備〈グループ〉: 各自発表の練習をする。【長島・増原】			発表の練習をする。(1時間)		
7) 発表②〈グループ〉: グループに分かれて発表をする。【長島・増原】			事前に発表の練習をする。練習後、フィードバックを踏まえて、本番の練習をする。(1時間)		
8) 振り返り: 活動を振り返り、ワークシートを記述する。【加藤】					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (75%)		作品 (50%)、振り返りのワークシート (25%)			
②実技・作品発表 (25%)		第3回 (10%)、第7回 (15%)			
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 発表後に各教員からコメントする。					
[備考] 材料費あり					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-A-20-56

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 表現技術Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦・長島 佳奈・増原 真緒	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	2セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		元現場保育者の経験から、保育における表現技術について伝えます。(増原)			
[授業の目的・ねらい] 子どもの豊かな心を育むために、造形表現を主とした表現を構想し、構想にもとづいて製作し、鑑賞することを通して表現技術を習得することを目的とする。					主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要] 2年授業「総合表現」のテーマに応じた壁面構成の製作・展示・鑑賞を行い、「総合表現」の活動に参加する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①テーマ、壁面空間に応じた主題を考え、主題に応じた内容を構想できる。 ②造形表現材料や造形表現技法の特性を活かして製作し、空間に応じて展示できる。 ③鑑賞と振り返りを通して、自分の表現技術を確認し他者の発想や表現のよさを感じ取ることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 構想①〈グループ活動〉：グループを編成し、テーマに応じた主題、を考える。主題を決定し、主題にもとづき、表現の構想を練り、完成予想図等をワークシートに記す。			授業時間内に構想がまとまらなかった場合は、次回までに話し合って決定しておく。(1時間)		
2) 構想②〈グループ活動〉：表現の構想にもとづき、製作に必要な用具や材料の準備をする。			製作に必要な用具や材料の有無を確認し、不足の場合は担当教員に相談した上で準備をする。(1時間)		
3) 製作①〈グループ活動〉：表現の構想にもとづき試作をし、表現の可否を確認する。必要に応じて表現の見直しをする。			各グループで必要なものがあれば、次回までに準備をする。(1時間)		
4) 製作②〈グループ活動〉：表現の構想にもとづき製作する。描画材や接着に乾燥が必要な製作はこの時間に行う。			授業時間内に予定通りに進まなかった場合は課外で製作する。(1時間)		
5) 製作③〈グループ活動〉：表現の構想にもとづき製作を継続する。			授業時間内に予定通りに進まなかった場合は課外で製作する。(1時間)		
6) 製作④〈グループ活動〉：表現の構想にもとづき製作を継続し、この時間ですべての展示物を完成させる。			授業時間内に展示物が完成しなかった場合は課外で製作し、次回まで完成させる。(1時間)		
7) 展示、鑑賞〈グループ活動〉：表現の構想にもとづき、学内空間に展示する。展示された壁面構成を鑑賞する。鑑賞したことを話し合い、気づいたことや感じたことなどをワークシートにまとめる。			授業時間内に展示できなかった場合は課外で展示する。(1時間)		
8) 「総合表現」への参加：2年授業「総合表現」に参加し活動の補助を行う。(2026年12月5日2限目予定)			2年生と打ち合わせをし、当日の活動に備える。(1時間)		
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (80%)		ワークシートの提出、記述、内容 (20%)、壁面構成の作品評価 (60%) で評価する。			
②実技・作品発表 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (20%)		記述と内容で評価する。			
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 鑑賞の際にコメントする。					

[備考] 大学の提供する材料費を上回る場合は各グループで購入する。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-A-20-57

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 地域実践演習 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦・舟越 美幸	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	1セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		元保育者経験の視点から大切なことをお伝えします。〈舟越〉			
[授業の目的・ねらい] 松江市の主に「子どもの福祉」を目的とした活動に主体的に参加することを通して、地域の取り組みを理解するとともに、地域の福祉活動を学ぶ。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] 松江市川津公民館での活動に参加する。授業は一部、「地域実践演習Ⅱ」と並行して実施する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 地域住民との交流活動を通し、人が地域で生活することの重要性について、体験を通して説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション: 授業の概要を把握する。 計画〈ゲストスピーカー〉: 川津公民館担当者の講話を聴く。「スノードームづくり」のスケジュールを確認し計画を練る。			代表者 (2名) は、川津公民館の打ち合わせに 教員(加藤)と共に参加する。(1時間) ※5月下旬予定		
2) 準備①〈グループワーク〉: スノードームづくりを行い、子どもに指導するときの配慮事項を確認する。【主・加藤】 活動の役割分担(司会進行、担当学年等)を行う。					
3) 準備②〈グループワーク〉: 司会進行、援助・指導者、児童役に分かれ、スノードームづくりのシミュレーションをする。【主・加藤】					
4) 準備③〈グループワーク〉: 司会進行、援助・指導者、児童役に分かれ、スノードームづくりのシミュレーションをする。援助・指導者、児童役は前回と交代する。					
5) 準備④〈グループワーク〉: 活動に必要な用具・材料を準備する。					
6)7) 実践〈グループワーク〉: 「夏休み、なにをする?2026(仮)」で参加児童にスノードームづくりの援助・指導する。 ※2026年8月21(金) 予定			活動前日に会場へ必要な用具・材料を搬入する。(1時間)		
8) 活動の振り返り: 地域の活動への参加を振り返り、活動報告会の準備・資料作成をする。					
[使用テキスト] 松江市川津公民館のホームページ ( <a href="https://matsue-city-kouminkan.jp/kawatu/katsudou/doc/2024021300060/">https://matsue-city-kouminkan.jp/kawatu/katsudou/doc/2024021300060/</a> )					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (60%)	ワークシート、活動報告資料等の提出、記述、内容で評価する。提出: 記述: 内容=2: 3: 5。				
②実技・作品発表 (20%)	第6・7回(20%)の実践で評価する。				
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (20%)	グループでの活動内容の発表で評価をする。				
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する				
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] グループでの活動内容の発表に対し、総評をする。					
[備考] シミュレーション(第3・4回)で製作するスノードームの材料費あり(300円程度予定)。材料費は後日徴収する。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-P-60-81

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 地域実践演習Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田 弘行・長島 佳奈	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	2セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 「子どもの福祉」を目的とした活動に主体的に参加することを通して、地域の取り組みを理解するとともに、地域の福祉活動を学ぶ。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 第1回～第5回は松江市川津公民館での活動を通して、松江市について理解することを主たる活動とする。授業の一部は「地域実践演習Ⅰ」と並行して1セメスターに実施する。第6回～第8回は「やすぎシグネットフェスティバル」にボランティアスタッフとして参加する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 福祉活動に携わる地域住民との交流を通して、私たちと地域との関係性を考察できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 授業の予定と概要/活動の目的を確認する			「川津ふれあい夏祭り」、「やすぎシグネットフェスティバル」についてインターネットで調べる (30分)		
2) グループ分け/活動の準備 (教材製作) : 射的・魚釣り			トイレットペーパーの芯をなるべく準備する		
3) 活動の準備 (教材製作) : 手作り楽器・射的・魚釣り					
4) 「川津ふるさと夏祭り」の当日準備に参加する					
5) 「川津ふるさと夏祭り」に参加する					
6) やすぎシグネットフェスティバルの前日準備に参加する					
7) やすぎシグネットフェスティバルに参加する					
8) やすぎシグネットフェスティバルに参加する					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( 30%)	第4回～第8回の取り組み姿勢や態度、提出物によって評価する。				
②実技・作品発表 ( %)					
【定期試験】					
①筆記試験 ( %)					
②レポート ( 70%)	この授業での取り組みを踏まえて、保育を志す学生たちが地域の催しに参加することの意味を考察しなさい。(1000文字以上)				
③実技試験 ( %)					
④面接試験 ( %)					
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] ・試験終了後にレポートの評価のポイントを掲示する。					
[備考] ・第4回は8/22(土)午前中の実施を予定している。(場所:川津公民館横、国際交流広場) ・第5回は8/22(土)16時半～19時の間でおこなう。(場所:川津公民館横、国際交流広場) ・第6回は1/9(土)午後の実施を予定している。(場所:安来市総合文化ホールアルテピア) ・第7・8回は1/10(日)の9時～17時の実施を予定している。(場所:安来市総合文化ホールアルテピア) ・定期試験のレポートを除いて、課題の提出はclassroomを用いておこなう。 ・活動に関する連絡はclassroomを用いておこなう。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-P-60-82

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 教育実習指導 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 舟越 美幸・橋本 祐治	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		保育者 (舟越) ・小学校校長 (橋本) として勤務した経験から、幼児教育に大切な視点を伝えます。			
[授業の目的・ねらい] ・実習の目的や内容を理解し、実習に臨む心構えや表現技術を身に付ける。 ・実習日誌の記録から、子どもの姿の理解や保育の計画への繋がりについて説明できるようになる。 ・指導案の作成方法を知り立案に活かすことができるようになる。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] ① 実習の目的・概要を理解し、実習への課題や達成方法を明確にする。 ② 学んだ保育技術を参考に、グループで指導案を作成し、実践する。 ③ 立案した指導案から新たな課題を見つけ、改善する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・幼稚園実習の意義や目的、内容について説明できる。 ・幼稚園教育において育みたい子どもの姿を理解し、子どもの主体的な生活や学びが実現できるよう、指導場面を想定した保育方法を実践できる。 ・実践した指導案を基に、改善する方法について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 幼稚園実習ガイダンス ・幼稚園実習の意義と目的、実習の時期と内容を理解する。 ・幼稚園教育要領解説を基に、幼稚園や幼稚園教諭の社会的役割を理解する。			・これまでの実習や講義・演習等を振り返り、子どもの興味や関心・発達過程と関連付けた保育実践について調べ準備しておくこと(2-3時間)。 ・保育者としてはもちろん、社会人として必要な態度を身につけていくことを求めます。		
2) 環境を通して行う教育と幼児の自発的な遊び ・実習日誌から環境と生活・遊びのつながりや幼稚園教諭の役割を考える。					
3) 子ども理解から始まる保育の方法 ・実習日誌から、「子どもの姿」を捉える。					
4) マジックシアターとスリーヒントクイズ ・指導案作成について学び、立案のポイントを理解する。 ・作成したマジックシアターに合わせ、スリーヒントクイズを作成する。			・「マジックシアター」を期日内に作成してください。(1時間)。		
5) マジックシアターとスリーヒントクイズを用いた指導案 (グループワーク) ・子どもを惹きつける表現方法や応答的な関わりについて学び、手立てを考える。 ・グループ内で役割分担について話し合い、実践場面を想定し練習する。					
6) 指導案による実践① (フィールドワーク) ・外部施設で、作成した指導案を用い子ども集団と言葉のやり取りを実践する。 ・外部施設で子どもたちと実践的に関わり、気づいたことを話し合う。			・立案した指導案に沿って、グループで準備してください。(1時間)		
7) 指導案による実践② (ディスカッション) ・実践した内容を基に、個々に省察しグループ内で話し合う。					
8) 実習に向けて「個人票」と「実習課題と取り組み」を作成する。 ・「個人票」と「実習課題と取り組み」の作成方法について学ぶ。 ・「実習課題と取り組み」を作成することで自分の課題を整理する。			・「個人票」と「実習課題と取り組み」を作成し、期日までに提出してください。(1~2時間)		
[使用テキスト] ・『実習ガイドブック』 大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 実習運営委員会 ・幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (70%)		幼稚園教育と保育者の役割と環境 (10%) ・実習日誌ワークシート (10%) フィールドワーク振り返り (10%) ・個人票 (20%) ・実習の課題と取り組み (20%)			
②実技・作品発表 (30%)		マジックシアター・スリーヒントクイズ (20%) ・実習指導案 (10%)			
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					

④面接試験（ %）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
・提出された課題について授業内で解説したり、添削したりすることで、フィードバックを行う。	
[備考]	
・「幼稚園実習」を履修するためには、「教育実習指導Ⅰ」「教育実習指導Ⅱ」を履修することが必要です。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-P-60-70

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習指導 I a		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 増原 真緒	
授業の回数	23 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1・2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		現場保育者の経験を活かし、実習に向かうための知識・技能や、準備等についてお伝えします。			
[授業の目的・ねらい] ・実習の目的や内容を理解し、実習に臨む心構えを作る。 ・実習日誌の記録方法を身に付け、日々の振り返りや保育の計画の繋がりを理解する。 ・手遊びおよび絵本の読み聞かせの実践から保育技術を学び、実践できるようになる。 ・事後指導や報告会を通し、保育の評価を行うことで、次の実習への新たな課題や学習目標を明確にする。					主に対応するDP 6
[授業全体の内容の概要] ① 実習の目的・概要を理解し、実習に向かう心構え・留意事項・自己課題を明確化する。 ② 「観察・参加体験」で実際の保育に触れ、記録の方法を身に付ける。 ③ 導入および「部分実習」について理解する。 ④ 事後学習を通して実習での学びを深める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・保育所の一日の流れや保育者の役割、子ども理解の大切さを理解し、実習日誌の記入ができる。 ・「部分実習」で実施する内容について理解し、実践やその事前準備ができる。 ・事後指導や実習報告会を通して省察を行うことで、次の実習への新たな課題や学習目標を明確化し、表明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ・オリエンテーション：シラバスの確認と本科目の説明 ・保育実習 I a の流れおよび心得と事前準備 (確認) ・保育実習 I a で習得すべき内容 ・名札の作成について ・「実習個人票」の作成			※授業内で実施する「観察・参加体験」および保育実習 I a に向け、一人の社会人として保育現場へ臨むことができるよう、 <u>且頃から挨拶、マナー、立ち居振る舞いに留意すること。</u>		
2) ・保育への参加の仕方と保育補助、保育所とは ・観察参加体験ガイダンス：観察・参加体験の概要説明、当日までの流れと準備			※本科目では <u>計画的な課題への取り組みと提出を重視するため、取り組み姿勢および提出期限の厳守を心がけること。</u> (各回 0.5 時間程度)		
3) ・観察参加体験の詳細について：メンバーおよび体験先施設の発表 ・当該施設についてグループごとに調べ、通勤方法や集合場所、時間等の決定を行う〈グループワーク〉 ・実習における守秘義務、「実習に関わる誓約書」(観察・参加体験用)の作成 ※ 印鑑を持参すること			【第4講に向けて】 ・「キャリアアップ教育 I」で受けた電話のかけ方や実習施設でのマナーについて復習してから受講できるようにすること。		
4) ・観察の視点：関与観察から始まる子ども理解、保育者の援助・意図の理解、メモの取り方 ・子ども理解を深めるための観察の視点と関わり (課題の提示) ・観察・参加体験前オリエンテーションに向けた電話の方法およびオリエンテーション当日のマナーについての確認 ・実習期間中の挨拶とマナー					
5) ・子ども理解と「受け止める」こと(多角的な視点を持つことの重要性)〈フォトランゲージ〉 ・グループディスカッションを通じた気づきの共有から学びを深める〈グループワーク〉					
6) ・実習日誌の記録方法 (1-1) : 実習日誌の意義、取り扱いおよび基本・留意事項 ・時系列の書き方と実践 (自己目標、ねらいと内容、出欠人数)					
7) ・実習日誌の記録方法 (1-2) : 時系列の書き方と実践 (子どもの姿と環境構成、保育者の関わり、実習生の行動等) ・DVD の視聴を通して実習生の事例を参考に学び、DVD 視聴から実習日誌の記録実践					
8) ・実習日誌の記録方法 (2) : 場面記録(エピソード)の書き方と実践 (DVD の視聴を通して実習生の事例を参考に学ぶ)					

<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察・参加体験に向けた最終確認</li> <li>・手遊びの習得と実践</li> </ul>	
9) ～14) 【観察参加体験】 : 7月2日・3日 9:00～14:30 ＊帰宅後はメモをまとめ、いずれか1日の実習日誌を作成のうえ、第15回授業に持参すること。 ＊「観察・参加体験 振り返りシート」を記入のうえ、第15回授業で提出すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察・参加体験後、「実習日誌」および「振り返りシート」を作成し、第15回の授業において持参すること。(授業時提出) (2～4時間程度)</li> </ul> ※科目担当教員およびアシスタント講師による実習日誌の添削指導を行う。
15) ・観察参加体験の振り返り〈グループワーク・ディスカッション〉	
16) ・「実習課題と取り組み」の作成方法 ※ パソコンおよび文書の保存媒体 (USB 等) の持参必須	
17) ・「実習様式集」および「実習ファイル」の配布と説明 ・実習前オリエンテーションに向けての電話および当日の受け方についての確認 ・手遊びの習得と子どもの心を惹きつける技術について	
18) ・実習日誌の記録実践(見直しと改善から) : <u>到達度の確認</u> ・実習報告書の作成方法	第18回授業で保育実習Ⅰaに向けた到達度の確認として実習日誌の記録に取り組む。その内容により、補習等を受ける必要も出てくるため、必ず提出すること。(2～3時間程度)
19) ・お礼状の書き方確認と実習終了後の流れ ・部分実習についての最終確認 ・実習の最終確認	・「キャリアアップ教育Ⅱ」で受けたお礼状の書き方について復習してから受講できるすること。
20) ・実習の振り返り (各施設の特徴や保育技術、部分実習等について)	
21) ～22) 【実習報告会】	
23) ・実習報告会を通しての振り返り (子ども理解の深化と共有)	
[使用テキスト] 実習運営委員会、『実習ガイドブック』, 2025, 大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 (松江キャンパス)	
[参考文献] ・小櫃智子ら、『保育所・幼稚園・認定こども園実習パーフェクトガイド』, 2017, わかば社 ・小櫃智子ら、『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』, 2015, わかば社	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 ( 100 %)	実習準備および実習後指導として提示する課題 (実習個人票, 観察・参加体験に係る書類, 誓約書, 子ども理解レポート, フォトランゲージシート, 実習日誌等) の提出期限厳守および提出物の内容について評価します。また, 第18回で作成する実習日誌の提出および記述内容から記述ポイントと技能について到達度の確認をした上で実習へ送り出します。
②実技・作品発表 ( %)	
【定期試験】	
①筆記試験 ( %)	
②レポート ( %)	
③実技試験 ( %)	
④面接試験 ( %)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 提出された課題についてその都度, 授業内で解説・コメントをします。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-P-60-73

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習指導 I b		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	元児童自立支援施設児童指導員としての実務経験を活かし、施設における日常生活支援の内容と方法について伝えます。				
[授業の目的・ねらい] 事前指導では、各実習施設の社会的役割と機能、児童福祉施設等での実習の目的、実習の内容、実習の記録の書き方等を学ぶ。実習後は、実習体験を振り返り、報告書に気づきや課題などをまとめることで、2年次の実習への課題や学習目標を明確にすることをねらいとする。保育実習指導では、これまで学習した様々な教科目と実習との関連を意識した内容になるため、すべての DP と共通する。					主に対応する DP 6
[授業全体の内容の概要] 実習に関わる書類の添削指導等においては全専任教員が関わる。第 1 回～第 10 回は児童福祉施設等の生活の様子について視聴覚教材等を用いて授業を行いながら、実習施設のイメージを高めることを目指す。グループ学習を通して実習施設の概況や法的位置づけ等を学び、実習施設の理解を深める。第 11 回以降は実習終了後に行い、グループでの振り返りや実習報告会を実施する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 実習や実習報告会に取り組み、児童福祉施設等における利用者等の実態について説明できる。 2. 実習や実習報告会に取り組み、児童福祉施設における保育者や職員の役割、職務について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 保育実習 I b の範囲、社会的養護を取り巻く近年の動向					
2) 実習に向けた準備① (実習施設の公表) ・保育実習 I b の意義と目的、内容と目標、実習に向けた心構え ・個人票を加筆修正する。実習ファイルを作成する。			・第 1 回事前指導授業課題に取り組む(1 時間)		
3) 実習に向けた準備② (実習施設の概況の理解) ・実習施設の概況について調べ、ワークシートを完成させる。			・個人票を完成させる(0.5 時間) ・第 2 回事前指導授業課題に取り組む(1 時間)		
4) 実習に向けた準備③ (実習施設の生活の理解、対象者理解) ・日課の意味や目的について第 3 講のワークシートをもとに話し合う。 ・過去の実習での実践事例から対象者理解を試みる。			・第 3 回事前指導授業課題に取り組む(1 時間)		
5) 実習に向けた準備④ (実習生の心構え①) ・実習施設が求める実習生について確認する。 ・BIG FIVE 尺度等から自己分析をし、自分の強みを探す。			・第 4 回事前指導授業課題に取り組む(2 時間)		
6) 実習に向けた準備⑤ (実習生の心構え②) ・ロールプレイを通して生活を捉えることを試みる。 ・DVD 教材をもとに、“タイチ”の生活機能を捉える。			・第 5 回事前指導授業課題に取り組む(1 時間)		
7) 実習に向けた準備⑥ (実習生の心構え③/実習課題の設定①) ・実習生に求められる生活技術、専門性、態度を学ぶ。 ・目指す保育者像を明確にする。			・第 6 回事前指導授業課題に取り組む(1 時間)		
8) 実習に向けた準備⑦ (実習課題の設定②) ・「実習課題と取り組み」を完成させる。			・第 7 回事前指導授業課題に取り組む(2 時間)		
9) 実習に向けた準備⑧ (実習記録の記入①) ・DVD 教材から実習日誌の模擬記録に取り組む。			・第 8 回事前指導授業課題に取り組む(1 時間)		
10) 実習に向けた準備⑨ (実習記録の記入②と振り返り) ・添削された模擬記録に修正を加える。 ・実習日誌(サンプル)の添削を行い、添削箇所をグループで確認する。			・第 9 回事前指導授業課題に取り組む(1 時間) ・実習日誌(サンプル)を添削する(2 時間)		
11) 実習の振り返り① ・お礼状、実習報告書の記入のポイントを押さえ、作成する。			・第 10 回事前指導授業課題に実習実施前までに取り組む(1 時間) ・お礼状を作成する(1 時間)		
12) 実習の振り返り② ・実習報告書の作成。発表の準備をする。			・実習報告書を作成する。 ・発表資料を作成する。		
13) 実習報告会① ・実習施設ごとに実習施設の様子を発表する。			・実習報告書を一読する(2 時間) ・発表原稿を作成する(2 時間)		

14) 実習報告会② ・実習施設ごとに実習施設の様子を発表する。	
15) 実習報告会③ ・グループに分かれて、実習で気づいたこと、学んだことを発表する。	
[使用テキスト] 実習運営委員会、『実習ガイドブック』，2026，大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科（松江キャンパス）。	
[参考文献]	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（ 60%）	各回における課題の提出状況と内容によって評価する。
②実技・作品発表（ 40%）	実習報告会での発表によって評価する。
【定期試験】	
①筆記試験（ %）	
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 提出課題にコメントをつけて返却する。	
[備考] 1. classroomを使用するので、アクセスできる端末を準備してください。 2. 「保育実習 I b」と同時に履修することが必要です。 3. 実習施設によってはDVDを貸出、予習を求める場合がある。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-P-60-74

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習 I a		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 増原 真緒	
授業の回数	80 時間	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		現場保育者経験から、保護者支援、保育の計画等、実習における学びについて指導します。			
[授業の目的・ねらい] ・保育所の機能や役割について理解し、保育者の仕事内容を知る。 ・子どもとの交流や保育者の行動観察を通して、子どもの発達や保育内容についての理解を深める。 ・関わりや観察を通し、子どもの言動から内面を想像し、保育者の専門性について学習する。					主に対応するDP 6
[授業全体の内容の概要] ① 保育所の役割や機能を理解する。 ② 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③ 授業で習った他教科の内容を踏まえ、生活や遊びと保育環境とのつながりを総合的に学ぶ。 ④ 保育の観察から記録をすること、部分的な保育の計画及び自己評価について理解する。 ⑤ 保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・保育所の役割や機能等について現場での体験を通して理解し、説明することができる。 ・各年齢の生活や遊び、発達過程について、実習にて経験したことから子どもの実態について説明することができる。 ・保育士の姿から手遊び等の保育技術を習得し、他者に伝えることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					[準備学修の内容]
<p>① 保育所の役割や機能の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所、認定こども園の生活と一日の流れを理解する。</li> <li>・保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領と照らし合わせながら、社会的役割や機能について総合的に理解する。</li> </ul> <p>② 子ども理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人一人やクラス集団を観察し、発達過程や子どもの思いや姿を理解する。</li> <li>・養護・教育的な関わりを通して、子ども一人一人やクラス集団を理解する。</li> <li>・保育士の子どもの関わりから、その意図や配慮を学ぶ。</li> </ul> <p>③ 生活や遊びと保育環境のつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達過程と生活や遊びに応じた保育環境について学ぶ。</li> <li>・子どもの健康と安全への配慮について学ぶ。</li> </ul> <p>④ 観察、記録、計画及び自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の観察、記録、計画及び自己評価について理解する。</li> <li>・実習日誌の記録の方法と気づきについて理解し、考察する。</li> <li>・保育者の姿を参考に手遊び・絵本読みなどを体験する。</li> <li>・指導案を作成し、手遊び・絵本読みなどの部分実習をおこなう。</li> </ul> <p>⑤ 保育士の職務内容と職業倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士の職務内容を実践的に学ぶ。</li> <li>・職員間の役割分担や連携について理解する。</li> <li>・保育士の社会的役割と職業倫理について学ぶ。</li> </ul>					※実習に向けて、および実習期間中は、実習指導 I a で学ぶ内容と大学にて学習した内容の振り返りと照らし合わせから学びを深めることを求めます。また、期間中は実習から帰宅後に実習日誌を作成します。(各日 2~3 時間程度)
[使用テキスト] ・実習運営委員会、『実習ガイドブック』, 2025, 大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 (松江キャンパス) ・厚生労働省、『保育所保育指針解説』, 2018, フレーベル館					
[参考文献] ・小櫃智子ら『保育所・幼稚園・認定こども園実習パーフェクトガイド』, 2017, わかば社 ・小櫃智子ら『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』, 2015, わかば社					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					

①到達度の確認（40％）	実習前指導における課題の提出および内容（課題と取り組み、身だしなみ検査）と、実習後指導における課題の提出および内容（お礼状、実習報告書、実習ファイル）によって評価します。
②実技・作品発表（60％）	実習施設より「実習態度」「子ども理解・対応」「知識・技術・判断」において全14項目から評価していただきます。
【定期試験】	
①筆記試験（％）	
②レポート（％）	
③実技試験（％）	
④面接試験（％）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 実習終了後、実習評価の返却とともに個々の課題について指導を行います。	
[備考] この科目を履修するためには、「保育実習指導Ⅰa」を履修しなければならない。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-P-60-75

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習 I b		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	80 時間	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験		資格必修			
[授業の目的・ねらい] 1. 多職種と連携して行う保育者や職員の生活支援に対する観察や生活への参加を通して、子どもや利用者の理解を深める。 2. 実習施設における自立支援計画や個別支援計画などに基づいた取り組みについて理解する。 3. 実習に必要な記録の書き方を身につける。					主に対応する D P 6
[授業全体の内容の概要] 各学生を乳児院、児童養護施設、児童発達支援センター、障がい児入所施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、障がい者支援施設、障がい福祉サービス事業所に振り分け、実習をおこなう。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 実習施設の社会的役割、機能、職務内容、子どもや利用者の生活の様子について説明できる。 2. 保育者としての職業倫理について考え、子どもの最善の利益を追求した実践について討論できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					[準備学修の内容]
<p>① 各実習施設の社会的役割と機能について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各実習施設の生活の様子と一日の流れを理解する。</li> <li>各実習施設の社会的役割と機能について、実習を通して総合的に理解する。</li> </ul> <p>② 各実習施設の生活に参加し、観察や関わりを通して子どもや利用者を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもや利用者の発達過程や特性を理解し、子どもや利用者の思いを汲み取る。</li> <li>子どもや利用者の思いを受けとめ、実習指導者の指導や配慮のもと、子どもや利用者との関わりを積極的に行う。</li> </ul> <p>③ 各実習施設の子どもや利用者の生活や発達過程を理解し、生活支援や生活援助の方法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育者や職員の行う生活支援の方法を観察し、実践する。</li> <li>各実習施設の生活に参加することを通して、子どもや利用者一人一人の様子や保育者の関わりを観察し、実践する。</li> </ul> <p>④ 各実習施設の計画に基づく取り組みについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動や援助における計画の必要性について理解する。</li> <li>記録に基づく省察や自己評価をする。</li> </ul> <p>⑤ 各実習施設の職務内容や多職種との連携、職業倫理について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各実習施設の職務内容を実践的に理解する。</li> <li>多職種との役割分担や連携について理解する。</li> <li>人権を尊重し、倫理観をもった関わり方を理解する。</li> <li>安全や健康への配慮を身につける。</li> </ul>					<p>※実習に向けて、および実習期間中は、実習指導 I b で学ぶ内容と大学にて学習した内容の振り返りと照らし合わせから学びを深めることを求めます。また、期間中は実習時間外に実習日誌を作成します。(各日 2～3 時間程度)</p>
[使用テキスト] 実習運営委員会、『実習ガイドブック』, 2025, 大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 (松江キャンパス)。					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( 60%)	実習施設による「実習態度」「知識・技術・判断」に関する項目について評価する。				
②実技・作品発表 ( 40%)	実習日誌と実習報告書によって評価する。				
【定期試験】					
①筆記試験 ( %)					
②レポート ( %)					
③実技試験 ( %)					

④面接試験(%)	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 実習終了後、実習評価の返却とともに個々の課題について指導をおこないます。	
[備考] ・この科目は「保育実習指導 I b」と合わせて履修する必要があります。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-P-60-76

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育研究法		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 保育研究における研究方法の特性について理解し、適切に選択する力を身に付ける。また卒業研究の作成に関して、必要な文献を読む力を身に付ける。					主に対応するDP 6
[授業全体の内容の概要] 本学科でおこなわれる保育実践研究を念頭に研究方法について講義・演習(グループワーク)をおこなう。研究テーマは各ゼミで定めるゼミテーマを参照する。 加藤ゼミ: 保育・幼児教育と美術文化のつながりや活用を考え、実践する 舟越ゼミ: インクルーシブ保育・教育における環境づくり 堅田ゼミ: 児童養護施設や放課後等デイサービスにおける子どもの権利擁護 増原ゼミ: 地域における子育て支援、絵本を介した関わり 長島ゼミ: 楽器や視覚的教材を活用した音楽表現、保育における音楽表現活動					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. テーマに応じた文献レビューを作成できる。 2. 目的に応じて適切な研究方法を選択できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ゼミテーマとそれに関連する用語を理解する					
2) ゼミテーマに関連する内容のカテゴリー分類					
3) 文献レビューの方法① (文献レビューの目的と視点)					
4) 文献レビューの方法② (資料収集と整理)					
5) 文献レビューの実践①					
6) 文献レビューの発表と質疑①					
7) 文献レビューの実践②					
8) 文献レビューの発表と質疑②					
9) 文献レビューの実践③					
10) 保育研究にみられる研究法① (観察法と面接法)					
11) 保育研究にみられる研究法② (質問紙調査法)					
12) 研究によってわかること・わからないこと					
13) ゼミテーマから「問い」と「仮説」を考える					
14) 「問い」と「仮説」から研究方法を検討する					
15) 研究方法の検討					
[使用テキスト] 戸江茂博・隅元泰弘 (編), 『保育職・教職をめざす人のための保育用語・法規』, 2025, ミネルヴァ書房.					
[参考文献] 浅井拓久也 (編), 『保育者のための統計学入門』, 2023, 萌文書林. 神林博史, 『1 歩前からはじめる「統計」の読み方・考え方』, 2016, ミネルヴァ書房. 佐藤郁哉, 『質的データ分析法 原理・方法・実践』, 2010, 新曜社. 関口靖広, 『教育研究のための質的研究法講座』, 2016, 北大路書房. 関仁志, 『はじめての保育実践研究』, 2019, 一藝社. J. W. Creswell・V. L. Plano Clark, 大谷順子 (訳), 『人間科学のための混合研究法 質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン』, 2020, 北大路書房.					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ( 10%)		授業内の提出物によって評価する。			
②実技・作品発表 ( 30%)		第 6 回、第 8 回の内容によって評価する。			
【定期試験】					
①筆記試験 ( %)					

②レポ ー ト ( %)	
③実 技 試 験 ( %)	
④面 接 試 験 ( 60%)	文献レビューの内容、研究方法に関する発表によって評価する。
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 授業内で必要に応じて振り返りをしたり、コメントしたりする。	
[備考] classroom と google meet を使います。スマートフォンやパソコンからログインできる状態にしておいてください。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-R-60-81

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育ゼミナール I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田弘行・加藤友彦・舟越美幸・ 増原真緒・長島佳奈	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	1 Semester 卒業必修
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 保育や幼児教育に関する専門的な知識・技能を身に付ける。 2. 主体的な学修姿勢を身に付ける。					主に対応するDP 6
[授業全体の内容の概要] 保育ゼミナール I・II・III・IVでは2年間にわたって、授業担当者のゼミに所属し、ゼミ毎の専門性に応じて様々な能力を身に付けることができるようにグループワークやフィールドワーク等をおこなう。各ゼミにおいて設定するテーマについて学び、2年間のゼミナール活動を通して、以下の専門的スキルを有した学生を育成することが目標である。					
ゼミ	テーマ	育てたい学生像			
加藤ゼミ	保育・幼児教育と美術文化のつながりや活用を考え、実践する	①美術文化に興味・関心を持ち、美術(造形)、児童文化の知識・技術を身に付けた学生 ②地域社会の福祉、教育、文化活動に貢献できる学生			
舟越ゼミ	インクルーシブ保育における環境づくり、保護者や地域資源との連携	①地域資源を活用した社会的子育て環境の意義を理解できる学生 ②参加者やスタッフと関係性を築き、個々のニーズに応じた環境がつけられる学生			
堅田ゼミ	(保育所以外の) 児童福祉施設における子どもの権利擁護	①子どもの人権に関して鋭い感性を有した学生 ②社会的養護を必要とする児童のアセスメントや支援の方法を探究できる学生			
増原ゼミ	地域における子育て支援、絵本を介した関わり	①子どもの言葉に関する知識・技能および言語表現に関わる表現技術を身に付けた学生 ②子育て支援に必要な技能や実際的な関わり方を身に付けた学生			
長島ゼミ	楽器や視覚的教材を活用した音楽表現、保育における音楽表現活動	①音楽に関わる表現技術を身に付けた学生 ②地域に音楽を通して貢献できる学生			
第1講は全員共通の内容だが、第2講以降はゼミ毎に授業場所を分けて実施する。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. 各所属ゼミのもとで、専門的スキルの素養を身に付けることができる。 2. ゼミ生同士で協働的に活動に取り組むことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
【加藤ゼミ】					
1) オリエンテーション/2年生によるゼミ紹介					
2) 学内装飾①(グループワーク) : 学内装飾の主題を決め、主題に応じた、表現材料や表現方法を検討し、試作する。※2年生と合同					
3) 学内装飾②(グループワーク) : 構想にしたがい製作する。製作の様子は画像あるいは動画で記録する。※2年生と合同					
4) 学内装飾③(グループワーク) : 構想にしたがい製作する。製作の様子は画像あるいは動画で記録する。※2年生と合同					
5) 児童文化研究① : ペーパーサート、エプロンシアター、紙芝居など「シアターもの」について調べる。				興味のある「シアターもの」の動画等を見ておく。(1時間)	
6) 児童文化研究② : 絵本の絵柄について調べる。				好きな絵柄の絵本を図書館等で借りる。(1時間)	
7) 学内装飾④(グループワーク) : 構想にしたがい製作する。製作の様子は画像あるいは動画で記録する。※2年生と合同					
8) 学内装飾⑤(グループワーク) : 構想にしたがい製作する。製作の様子は画像あるいは動画で記録する。※2年生と合同					
学習のまとめ : 学内装飾の活動の振り返りをする。					

<b>【舟越ゼミ】</b>	
1) オリエンテーション/2年生によるゼミ紹介	
2) 自己紹介/計画①年間計画の共有・内容の確認と役割分担	
3) 計画②グループ別活動計画	
4) 1年生活動/地域資源の活用・養護と教育の関わりと社会的子育て環境	
5) 計画③グループ別準備	
6) 計画④グループ別打合せ・リハーサル	
7) 乃木公民館における親子活動支援	
8) 大山沢登りに関する親子体験活動支援	
<b>【堅田ゼミ】</b>	
1) オリエンテーション/2年生によるゼミ紹介	
2) 社会的養護の施設の概要（グループワーク）	
3) 社会的養護施設の子どもの権利擁護（島根県、鳥取県の社会的養育推進計画の比較をもとに話し合う）	
4) 放課後等デイサービスの概要と生活の様子 ※施設職員による講話	
5) 放課後等デイサービスの概要 ※施設見学	
6) 児童養護施設の概要と生活の様子 ※施設見学	
7) 児童養護施設の概要と職員の専門性 ※施設訪問	
8) グループ分け/余暇活動の内容を検討する	
<b>【増原ゼミ】</b>	
1) オリエンテーション/2年生によるゼミ紹介	
2) ゼミ活動実施に向けた計画と内容および担当者の決定 ゼミ活動準備・打合せ	
3) ゼミ活動【親子活動（仮）】	
4) 1年交流会・ゼミ活動について率直な意見交換	
5) ゼミ活動準備・その他	
6) ゼミ活動準備・打合せ・その他	
7) ゼミ活動【親子活動（仮）】	
8) 前半活動の振り返り 中間発表に向けたまとめ（先輩の資料作成にあたり意見集約）	
<b>【長島ゼミ】</b>	
1) オリエンテーション/2年生によるゼミ紹介	
2) 保育施設における音楽表現活動に向けた計画と内容	
3) 楽器を中心とした表現活動①	
4) 楽器を中心とした表現活動②	
5) 保育施設で活用できる視覚的教材とうたう活動①	
6) 保育施設で活用できる視覚的教材とうたう活動②	
7) 楽器や視覚的教材を活用した音楽表現の練習	
8) 相互発表、まとめ	
[使用テキスト]	
なし	
[参考文献]	
適宜、ゼミ指導教員が紹介する。	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
<b>【平常試験】</b>	
①到達度の確認（80%）	各ゼミで課される課題やその取り組みによって評価する。
②実技・作品発表（%）	
<b>【定期試験】</b>	
①筆記試験（%）	
②レポート（20%）	各ゼミでの学びの総括に関するレポート課題によって評価する。
③実技試験（%）	
④面接試験（%）	

平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 各ゼミ教員によって、都度授業内で解説したり、コメントしたりする。授業時間外でおこなう場合もある。	
[備考] 第2講以降は外部機関との調整を必要とする講があり、ゼミによって開講時期や順番を変更する場合がある。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-R-60-84

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育ゼミナールⅡ (加藤ゼミ)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	1単位	配当	2セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 保育ゼミナールⅠで身に付けた専門的な知識・技能をもとに、実践的・体験的な学修に取り組む。そのうえで、保育や幼児教育に関する課題を設定することができる。 2. 主体的な学修姿勢を身に付ける。					主に対応するDP 6
[授業全体の内容の概要] 保育ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは2年間にわたって、授業担当者のゼミに所属し、ゼミ毎の専門性に応じて様々な能力を身に付けることができるようにグループワークやフィールドワーク等をおこなう。加藤ゼミでは次のテーマについて学び、2年間のゼミナール活動を通して、以下の専門的スキルを有した学生を育成することが目標である。 <テーマ> 保育・幼児教育と美術文化のつながりや活用を考え、実践する <育てたい学生像> ①美術文化に興味・関心をもち、美術（造形）、児童文化の知識・技術を身に付けた学生 ②地域社会の福祉、教育、文化活動に貢献できる学生 ※2年生と合同で授業をおこなう場合もある。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 体験的な学習を通して、研究テーマを設定することができる。 2. ゼミ生同士で協働的に活動に取り組むことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
<b>【加藤ゼミ】</b>					
1) 学内装飾⑥（グループワーク）：構想にしたがい製作する。製作の様子は画像あるいは動画で記録する。					
2) 学内装飾⑦（グループワーク）：作品を展示する。展示の様子は画像あるいは動画で記録する。					
3) 学内装飾⑧：展示した作品を鑑賞し、活動全体を振り返る。画像を用いたポートフォリオを作成する。			PCに記録した画像や動画を取り込み、Wordに挿入できるようにしておく。（1時間）		
4) 児童文化研究③：「シアターもの」あるいは絵本の中から児童文化を選び、作品の研究をする。			「シアターもの」であれば動画を視聴し、絵本であれば図書館等で借りておく。（1時間～2時間）		
5) 児童文化研究④：「シアターもの」あるいは絵本の中から児童文化を選び、作品の研究をする。					
6) 2年生のプレ発表に参加する。					
7) 児童文化研究⑤：「シアターもの」あるいは絵本の中から児童文化を選び、作品の研究をする。			「シアターもの」であれば動画を視聴し、絵本であれば図書館等で借りておく。（1時間～2時間）		
8) 児童文化研究⑥：選んだ児童文化を製作する。			絵コンテ、シナリオあるいは台本を作成する。（1時間～2時間）		
9) 児童文化研究⑦：選んだ児童文化を製作する。					
10) 児童文化研究⑧：選んだ児童文化を製作する。					
11) 2年生の卒業研究発表練習に参加する					
12) 児童文化研究⑨：選んだ児童文化を製作する。			絵コンテ、シナリオあるいは台本を作成する。（1時間～2時間）		
13) 児童文化研究⑩：選んだ児童文化を製作する。					
14) 児童文化研究⑪：研究計画書を作成する。					
15) 児童文化研究⑫：研究計画書を発表する。					
[使用テキスト] なし					
[参考文献]					

適宜、ゼミ指導教員が紹介する。	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 ( 80%)	各ゼミで課される課題やその取り組みによって評価する。
②実技・作品発表 ( %)	
【定期試験】	
①筆記試験 ( %)	
②レポート ( 20%)	研究計画書の内容によって評価する。
③実技試験 ( %)	
④面接試験 ( %)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
ゼミ教員によって、都度授業内で解説したり、コメントしたりする。授業時間外でおこなう場合もある。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-R-60-85

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育ゼミナールⅡ (舟越ゼミ)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 舟越 美幸	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	1単位	配当	2 Semester
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 保育ゼミナールⅠで身に付けた専門的な知識・技能をもとに、実践的・体験的な学修に取り組む。そのうえで、保育や幼児教育に関する課題を設定することができる。 2. 主体的な学修姿勢を身に付ける。					主に対応するDP 6
[授業全体の内容の概要] 保育ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは2年間にわたって、授業担当者のゼミに所属し、ゼミ毎の専門性に応じて様々な能力を身に付けることができるようにグループワークやフィールドワーク等をおこなう。舟越ゼミでは次のテーマについて学び、2年間のゼミナール活動を通して、以下の専門的スキルを有した学生を育成することが目標である。 <テーマ> インクルーシブ保育における環境づくり、保護者や地域資源との連携 <育てたい学生像> ①地域資源を活用した社会的子育て環境の意義を理解できる学生 ②参加者やスタッフと関係性を築き、個々のニーズに応じた環境が作られる学生 ※2年生と合同で授業をおこなう場合もある。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 体験的な学習を通して、研究テーマを設定することができる。 2. ゼミ生同士で協働的に活動に取り組むことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
<b>【舟越ゼミ】</b>					
1) 後期ガイダンス					
2) 前期活動の振り返りと後期の活動計画					
3) テーマの検討①					
4) テーマの検討②					
5) 廃材を使った遊びの考案①					
6) 廃材を使った遊びの考案②					
7) 廃材を使った遊び場づくり					
8) 学習のまとめと振り返り					
9) 特別な教育的ニーズをもつ子どもの地域療育支援準備①					
10) 特別な教育的ニーズをもつ子どもの地域療育支援準備②					
11) たんぽぽの集いクリスマス会活動支援					
12) 後期活動の振り返り					
13) 研究計画①					
14) 研究計画②					
15) 研究計画③					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] 適宜、ゼミ指導教員が紹介する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
<b>【平常試験】</b>					
①到達度の確認 ( 80%)		各ゼミで課される課題やその取り組みによって評価する。			
②実技・作品発表 ( %)					
<b>【定期試験】</b>					
①筆記試験 ( %)					
②レポート ( 20%)		研究計画書の内容によって評価する。			
③実技試験 ( %)					

④面接試験(%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ゼミ教員によって、都度授業内で解説したり、コメントしたりする。授業時間外でおこなう場合もある。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-R-60-85

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育ゼミナールⅡ (堅田ゼミ)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	1単位	配当	2セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
1. 保育ゼミナールⅠで身に付けた専門的な知識・技能をもとに、実践的・体験的な学修に取り組む。そのうえで、保育や幼児教育に関する課題を設定することができる。					6
2. 主体的な学修姿勢を身に付ける。					
[授業全体の内容の概要]					
保育ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは2年間にわたって、授業担当者のゼミに所属し、ゼミ毎の専門性に応じて様々な能力を身に付けることができるようにグループワークやフィールドワーク等をおこなう。堅田ゼミでは次のテーマについて学び、2年間のゼミナール活動を通して、以下の専門的スキルを有した学生を育成することが目標である。					
<テーマ>					
(保育所以外の) 児童福祉施設における子どもの権利擁護					
<育てたい学生像>					
①子どもの人権に関して鋭い感性を有した学生					
②社会的養護を必要とする児童のアセスメントや支援の方法を探究できる学生					
※2年生と合同で授業をおこなう場合もある。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
1. 体験的な学習を通して、研究テーマを設定することができる。					
2. ゼミ生同士で協働的に活動に取り組むことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
<b>【堅田ゼミ】</b>					
1) 余暇活動の準備／練習をおこなう			必要な教材を揃える。(2時間)		
2) 余暇活動の準備／練習を相互におこなう					
3) 放課後等デイサービスを利用する子どもとの関わり (ボランティア)					
4) 児童養護施設の入所児童の傾向 ※施設訪問					
5) 児童養護施設における子どもの自立支援 ※施設訪問					
6) 児童養護施設における子どもの権利擁護 ※施設訪問					
7) 放課後等デイサービスを利用する子どもとの関わり (保育ボランティア)					
8) 社会的養育の必要な子どもとの関わり① (保育ボランティア)					
9) 社会的養育の必要な子どもとの関わり② (余暇活動準備)					
10) 社会的養育の必要な子どもとの関わり③ (余暇活動)					
11) 学習のまとめと振り返り／2年生卒業研究の概要紹介と質疑①					
12) 学習のまとめと振り返り／2年生卒業研究の概要紹介と質疑②					
13) 卒業研究テーマの検討					
14) 卒業研究スケジュールの検討					
15) 卒業研究スケジュールの発表					
[使用テキスト]					
なし					
[参考文献]					
適宜、ゼミ指導教員が紹介する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
<b>【平常試験】</b>					
①到達度の確認 ( 80%)		各ゼミで課される課題やその取り組みによって評価する。			
②実技・作品発表 ( %)					
<b>【定期試験】</b>					
①筆記試験 ( %)					
②レポート ( 20%)		研究計画書の内容によって評価する。			
③実技試験 ( %)					

④面接試験(%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
<p>[フィードバックの方法]</p> <p>ゼミ教員によって、都度授業内で解説したり、コメントしたりする。授業時間外でおこなう場合もある。</p> <p>[備考]</p>	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-R-60-85

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育ゼミナールⅡ （増原ゼミ）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 増原 真緒	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	1単位	配当	2セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 保育ゼミナールⅠで身に付けた専門的な知識・技能をもとに、実践的・体験的な学修に取り組む。そのうえで、保育や幼児教育に関する課題を設定することができる。 2. 主体的な学修姿勢を身に付ける。					主に対応するDP 6
[授業全体の内容の概要] 保育ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは2年間にわたって、授業担当者のゼミに所属し、ゼミ毎の専門性に応じて様々な能力を身に付けることができるようにグループワークやフィールドワーク等をおこなう。増原ゼミでは次のテーマについて学び、2年間のゼミナール活動を通して、以下の専門的スキルを有した学生を育成することが目標である。 <テーマ> 地域における子育て支援、絵本を介した関わり <育てたい学生像> ①子どもの言葉に関する知識・技能および言語表現に関わる表現技術を身に付けた学生 ②子育て支援に必要なスキルや実際的な関わり方を身に付けた学生 ※2年生と合同で授業をおこなう場合もある。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 体験的な学習を通して、研究テーマを設定することができる。 2. ゼミ生同士で協働的に活動に取り組むことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
<b>【増原ゼミ】</b>					
1) 前期を振り返り後期に向けたゼミ活動の計画確認 ゼミ活動準備・打合せ・その他					
2) ゼミ活動【親子活動（仮）】					
3) 今後のゼミ活動に関する率直な意見共有・ゼミ活動準備					
4) ゼミ活動準備・その他					
5) ゼミ活動準備・打合せ・その他					
6) ゼミ活動【親子活動④（仮）】					
7) ゼミ活動準備					
8) ゼミ活動【親子活動（仮）】 またはゼミ活動準備					
9) ゼミ活動準備					
10) ゼミ活動振り返り 2年生の卒業研究の共有から今後の研究活動模索のための調査					
11) 卒業研究テーマの検討（先行研究調査）					
12) 実践研究計画書の作成					
13) ゼミ活動【親子活動（仮）】 ※この回は1年生のみで来場した子どもの対応をします。					
14) 実践研究計画書の作成～完成					
15) 実践研究計画の発表					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] 適宜、ゼミ指導教員が紹介する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
<b>【平常試験】</b>					
①到達度の確認（80%）		<ul style="list-style-type: none"> <li>各親子活動の準備から片付けといった事前事後活動（40%）</li> <li>各親子活動当日の親子への関わりと協働的姿勢や責任感等（40%）</li> </ul>			

②実技・作品発表（　％）	
【定期試験】	
①筆記試験（　％）	
②レポート（ 20％）	研究計画書の内容によって評価する。
③実技試験（　％）	
④面接試験（　％）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ゼミ教員によって、都度授業内で解説したり、コメントしたりする。授業時間外でおこなう場合もある。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-R-60-85

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育ゼミナールⅡ (長島ゼミ)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 長島 佳奈	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	1単位	配当	2セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 保育ゼミナールⅠで身に付けた専門的な知識・技能をもとに、実践的・体験的な学修に取り組む。そのうえで、保育や幼児教育に関する課題を設定することができる。 2. 主体的な学修姿勢を身に付ける。					主に対応するDP 6
[授業全体の内容の概要] 保育ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでは2年間にわたって、授業担当者のゼミに所属し、ゼミ毎の専門性に応じて様々な能力を身に付けることができるようにグループワークやフィールドワーク等をおこなう。長島ゼミでは次のテーマについて学び、2年間のゼミナール活動を通して、以下の専門的スキルを有した学生を育成することが目標である。 <テーマ> 楽器や視覚的教材を活用した音楽表現、保育における音楽表現活動 <育てたい学生像> ①音楽に関わる表現技術を身に付けた学生 ②地域に音楽を通して貢献できる学生 ※2年生と合同で授業をおこなう場合もある。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 体験的な学習を通して、研究テーマを設定することができる。 2. ゼミ生同士で協働的に活動に取り組むことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
<b>【長島ゼミ】</b>					
1) オリエンテーション／保育施設における音楽を活用した実践活動の調査、意見交換					
2) 保育施設での実践に向けた計画と内容および主となる担当者の決定、準備					
3) 保育施設での実践に向けた準備、練習					
4) 保育施設での実践に向けた準備、練習					
5) 保育施設での実践に向けた準備、練習					
6) 保育施設での実践に向けた準備、練習					
7) リハーサル、内容の改善					
8) 保育施設での実践の仕上げ					
9) 保育施設での実践					
10) ゼミ活動の振り返り					
11) 卒業研究テーマの検討・2年生卒業研究の概要紹介と質疑					
12) 卒業研究テーマの検討と卒業研究計画書の作成					
13) 卒業研究計画書の作成					
14) 卒業研究計画書の作成					
15) 卒業研究計画の発表					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] 適宜、ゼミ指導教員が紹介する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
<b>【平常試験】</b>					
①到達度の確認 ( 80%)		各ゼミで課される課題やその取り組みによって評価する。			
②実技・作品発表 ( %)					
<b>【定期試験】</b>					
①筆記試験 ( %)					
②レポート ( 20%)		研究計画書の内容によって評価する。			

③実技試験(%)	
④面接試験(%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ゼミ教員によって、都度授業内で解説したり、コメントしたりする。授業時間外でおこなう場合もある。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-R-60-85